

市吏員市外居住者ハ通報人ヲ定ムル件

明治三十七年十二月五日  
訓示 第三號

本市吏員ニシテ市外ニ居住スルモノハ臨時召喚等ノ場合ニ於テ不便不尠ニ付市内便宜ノ  
町ニ通報人ヲ定メ置キ其住所氏名ヲ秘書係ヘ届出ツヘシ  
但從來市外居住者ハ本文ノ手續ニ依リ至急通報人ヲ相定ムヘシ

### 市吏員忌引内規

大正五年六月二十六日  
依 命 通 牒

第一條 市吏員親族ノ喪ニ丁ツ左記ノ日限ヲ經過スルトキハ除服出仕ヲ命スルモノトス  
但特別ノ事情アル者ハ此限ニアラス

- 一、父母、養父母、妻 十四日
- 二、繼父母、祖父母、子 七日
- 三、伯叔父母、兄弟姉妹 五日
- 四、曾祖父母、孫 三日
- 五、甥姪、從兄弟姉妹 一日

七歳未滿ノ小兒ニシテ子及家ニ在ル嫡孫ハ遠慮三日其他ハ一日トス

第二條 前條ノ日限内ト雖事務ノ都合ニ依リ特ニ出仕ヲ命スルコトアルヘシ

第三條 市吏員ニ準スヘキ者(日給ノ者ハ除ク)ニ對シテハ本内規ヲ準用ス

### 非常事變出務心得

大正二年三月十日決議

- 一、執務時間外ニ在リテ本廳近傍ノ出火若クハ市内ノ大火(凡二十戸以上ヲ云フ但二十戸以内トタル)又ハ天災非常事變アル場合ハ宿直員ニ於テ直ニ電話又ハ急使ヲ以テ市長助役庶務課長(天災ノ場合ハ土木課長同課技師ヲ含ム)並警備主任へ通知スヘシ
- 一、前項ノ場合ニ在テハ庶務課長(土木課長同課技師)警備主任ハ現場ニ出張シ其區吏員ト協力シ被害程度ヲ取調ヘ市長助役ニ報告シ同時ニ警察官ト打合セ市民救護上ニ就キ應急ノ處置ヲ執ルヘシ
- 一、市長出場ノ際ハ使丁ヲシテ左記第一圖ノ晝間ハ旗、夜間ハ高張ヲ掲ケシメ其所在ヲ明カナラシムヘシ
- 一、救護ニ従事スル市吏員出張ノ場所ニハ使丁ヲシテ左記第二圖ノ晝間ハ旗、夜間ハ高張ヲ適宜ノ位置ニ樹立セシメ吏員ノ參集並ニ罹災者ノ申告ニ使ナラシムヘシ
- 一、市吏員第一項ノ災害事變アルヲ知リタルトキハ制服ヲ着用シ速ニ本廳ニ出頭シ上司ノ指揮ニ従フヘシ但シ其居所現場ニ至ルヲ便トスル場合ニ於テハ直ニ現場ニ參着スヘシ
- 一、市長ハ必要ニ應シ助役以下各吏員ノ非常召集ヲ行ヒ臨時事務ニ服セシム

第一圖



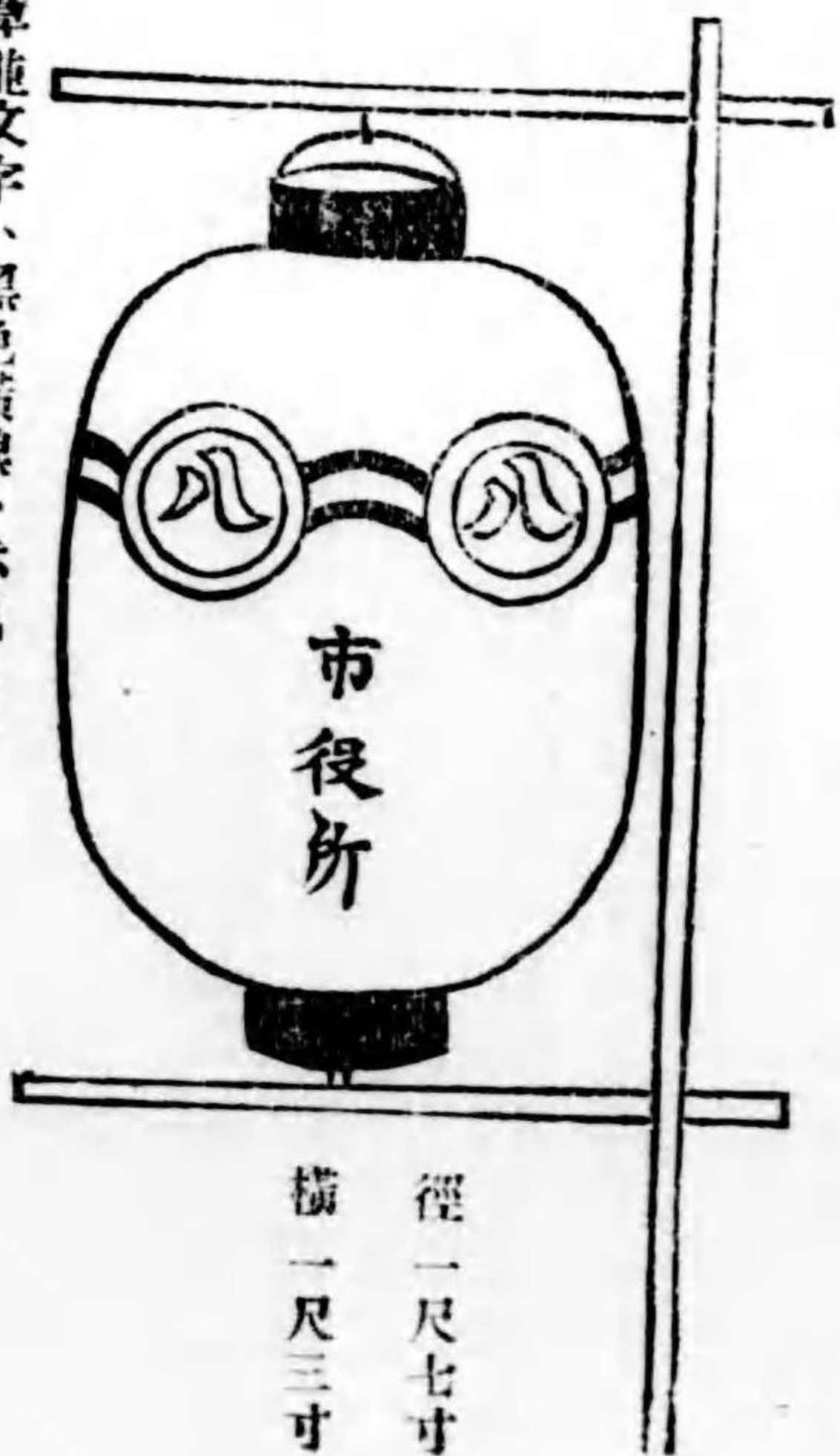
第三類 職制及廳規

第二圖



第一圖第二圖トモ徽章並文字ハ黑色横線ハ赤色トス

徑一尺五寸



### 軍籍ニ在ル市吏員勤務演習召集ノ場合休職ノ件

大正二年六月  
庶第九三號通牒

陸海軍ノ軍籍ニ在ル本市吏員又ハ雇員ニシテ勤務演習ノ爲召集三十日以上ニ亘ル者ハ市吏員ニ在リテハ休職及特別給與規程第三條ニ依リ休職ヲ命スヘク雇員ニ在リテハ一時解雇スヘキコトニ内定相成候條右ニ御取扱ヒ相成度候

### 守衛服務規程

大正三年四月九日  
達第十五號

- 第一條 守衛ハ市町村吏員服務規律ヲ遵守シ收入役及調度係主任ノ指揮ヲ承ケ廳中並ニ構内ノ警守、來應者ノ執接ニ從事スルモノトス
- 第二條 守衛ハ登應時間三十分前ニ出勸シ廳員退出後掃除ノ終了ヲ持テ廳ノ内外ヲ巡視シ宿直員ニ申告ノ上退出スルモノトス
- 第三條 守衛勤務ノ方法ハ每二時間交代ニテ一人ハ見張所附近ニ一人ハ廳ノ内外ヲ巡視シ來應者ニ對シテハ懇切ニ應答ヲナシ面會其他ニ付テ便宜ヲ與フルコトニ努ムヘシ
- 第四條 大火、近火、其他天災ノ際ハ速ニ登應スヘシ
- 第五條 勤務中ハ制服ヲ着用シ巡視ノ際ハ必ス着帽スヘシ但病氣其他ノ事故ニ由リ制規ノ服裝ヲ爲シ難キトキハ收入役ノ認諾ヲ受クヘシ
- 第六條 守衛ハ日誌簿ヲ備ヘ事故ノ要旨、來應者ノ氏名其他後日ノ參考トナルヘキ事項ヲ記載シ收入役及調度係主任ノ檢閲ヲ受クヘシ

水道検査員、水道巡視、守衛監視  
及運轉手服制

水道検査員、水道巡視、守衛監視及運轉手服制左ノ通定ム

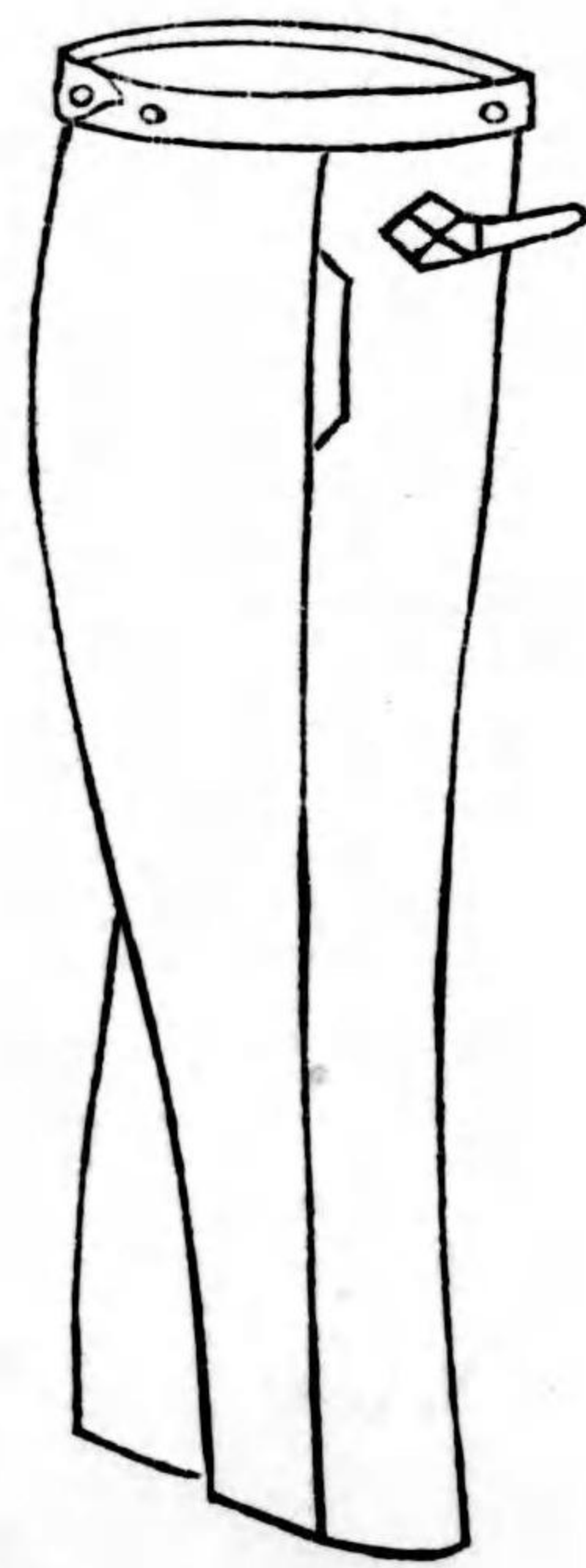
大正三年五月二十日 告示第六十九號  
大正四年三月十六日 告示第三十號ヲ以テ改正

帽					水道検査員	水道巡視	守衛監視	視	自動車運轉手
日	紐	徽	製	地					
覆	鈕	章	式	質	絨	上	上	上	上
白布ニシテ帽ノ上	丸徑三分五厘ノ金色	市製徑五分中央ニ七 字ハ藍色地色ハ赤	圓形ニシテ黒革製 前底及幅四分ノ黒 革製紐ヲ附シ其 向端ハ帽ノ兩側ニ 於テ鈕ヲ以テ留ム	黒	絨	上	上	上	上
同	同	同	同	同	同	上	上	上	上
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上

夏		服					冬	
上	袴	衣		上				
製式	地質	製式	地質	袖章	襟章	卸	製式	地質
冬服ニ同シ	白木綿雲齋織	普通長袴兩服ニ各一個ノ物ヲ入テ附ス	上衣ニ同シ	ナ	<small>テ浪丸ノ中央ニ</small> <small>ハ線ノモノ</small> <small>左襟ニ附ス</small> <small>ス文字ハ黒色地色</small> <small>巡ノ文字ヲ現ハ</small> <small>以下同上</small>	<small>徑五分五厘市徽</small> <small>形金色ノモノ</small> <small>五個</small> <small>ヲ附ス</small>	<small>立襟一行</small> <small>ニシテ前</small> <small>入テ附ス</small>	黒
同	同	同	同	シナ	<small>同形浪丸ノ中央ニ</small> <small>ス以下同上</small>	同	同	絨
上	上	上	上	シナ	<small>同形浪丸ノ中央ニ</small> <small>チ左襟ニ附ス</small>	上	上	上
上	上	上	上	シ	<small>幅三寸ノ銀</small> <small>ナ附ス</small>	上	上	上
上	上	上	上	ナ	<small>モール製金色</small> <small>ノニ字ヲ組合</small> <small>章ヲ左襟ニ附ス</small>	同	同	上

套		外					服					
		袴			衣							
卸	袖章	襟章	製式	地質	製式	地質	襟章	袖章	卸	製式	地質	卸
<small>上衣ニ同</small> <small>個宛ニ行</small>	<small>幅五分ノ黒線一條</small> <small>及徑三分ノ市徽</small> <small>形金色</small>	<small>折襟胸ニ重後</small> <small>ナ附ス</small>	<small>折襟胸ニ重後</small> <small>ナ附ス</small>	黒	冬服ニ同シ	上衣ニ同シ	冬服ニ同シ	冬服ニ同シ	冬服ニ同シ	冬服ニ同シ	黒	冬服ニ同シ
同	同	シナ	同	絨	同	同	同	同	同	同	同	同
上	上	シナ	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
上	上	シナ	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
上	上	シナ	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
上	上	シ	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
上	上	シ	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
上	上	シ	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上

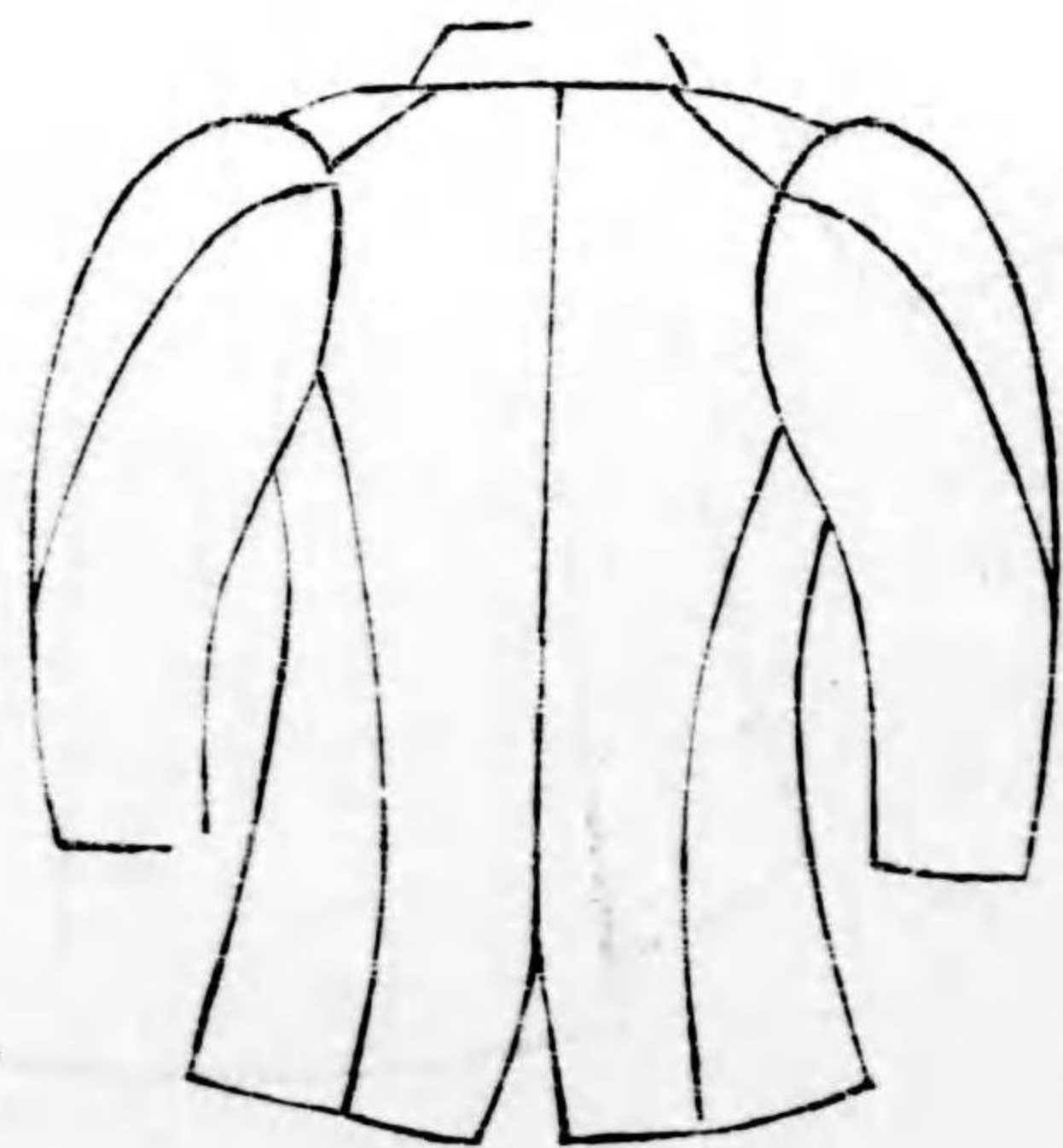
防水ニ必用ナル地質ヲ用ユルコトヲ得



袴



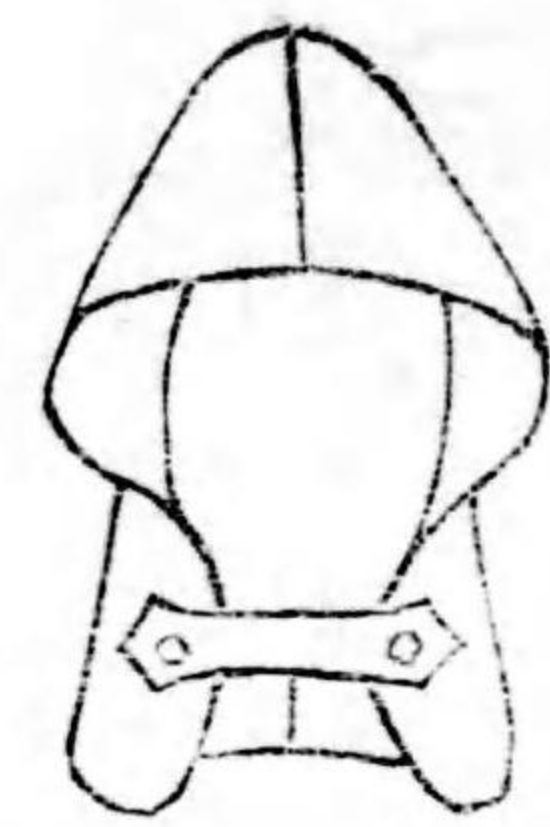
水道検査員  
水道巡視  
守衛  
上衣  
前面



全上  
背面

靴		脚		脚		脚	
製式	質	製式	地質	製式	地質	製式	地質
短靴ニシテ深護謨又ハ編上ゲ	黒革	卷脚	茶褐色絨	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
上同	上同	上ナ	上ナ	上同	上同	上同	上同
上同	上同	シナ	シナ	上同	上同	上同	上同
上同	上同	シナ	シナ	上同	上同	上同	上同
上	上	シ	シ	上	上	上	上

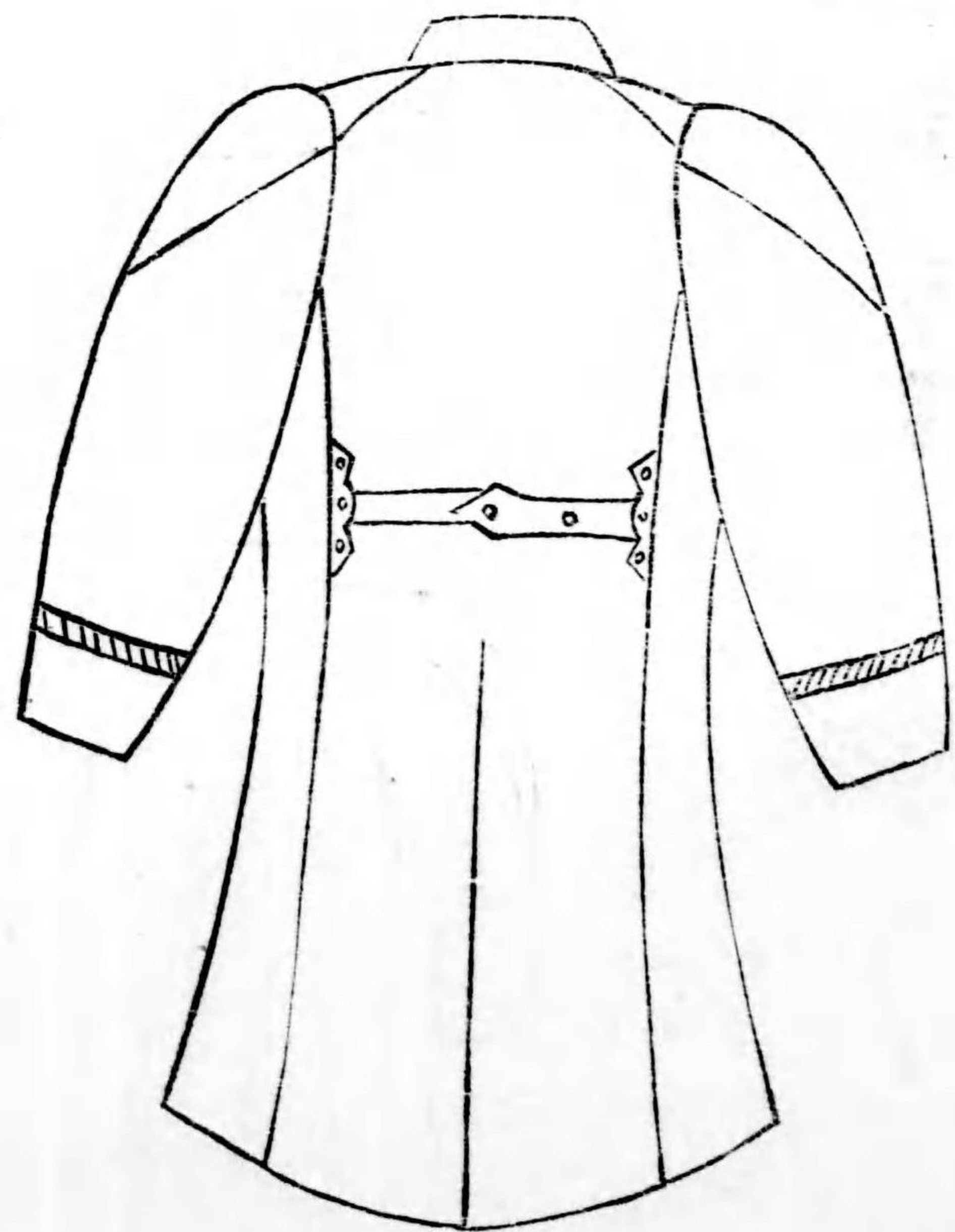




帽 覆



守衛襟章



背面

全 上



水道巡視 襟章

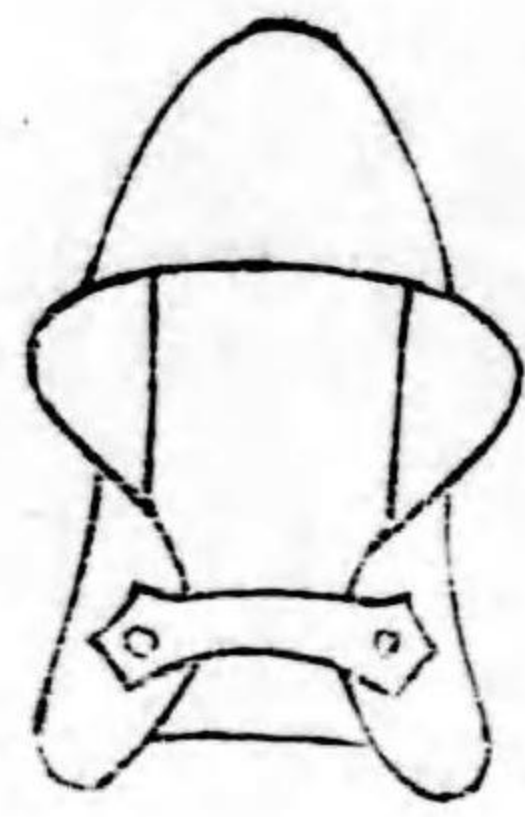


水道檢查員 徽章

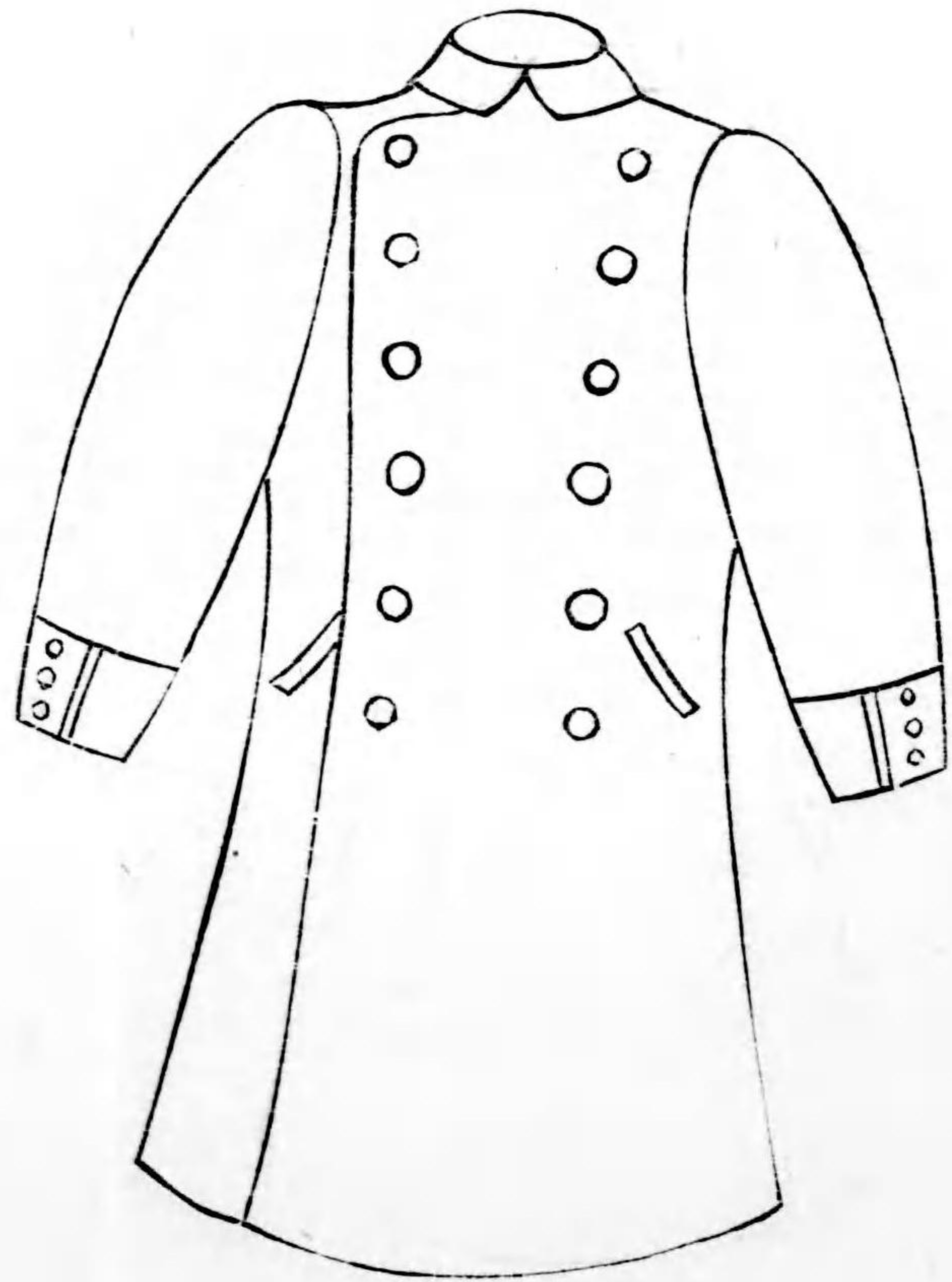


前面

水道巡視 水道檢查員 外衛視套

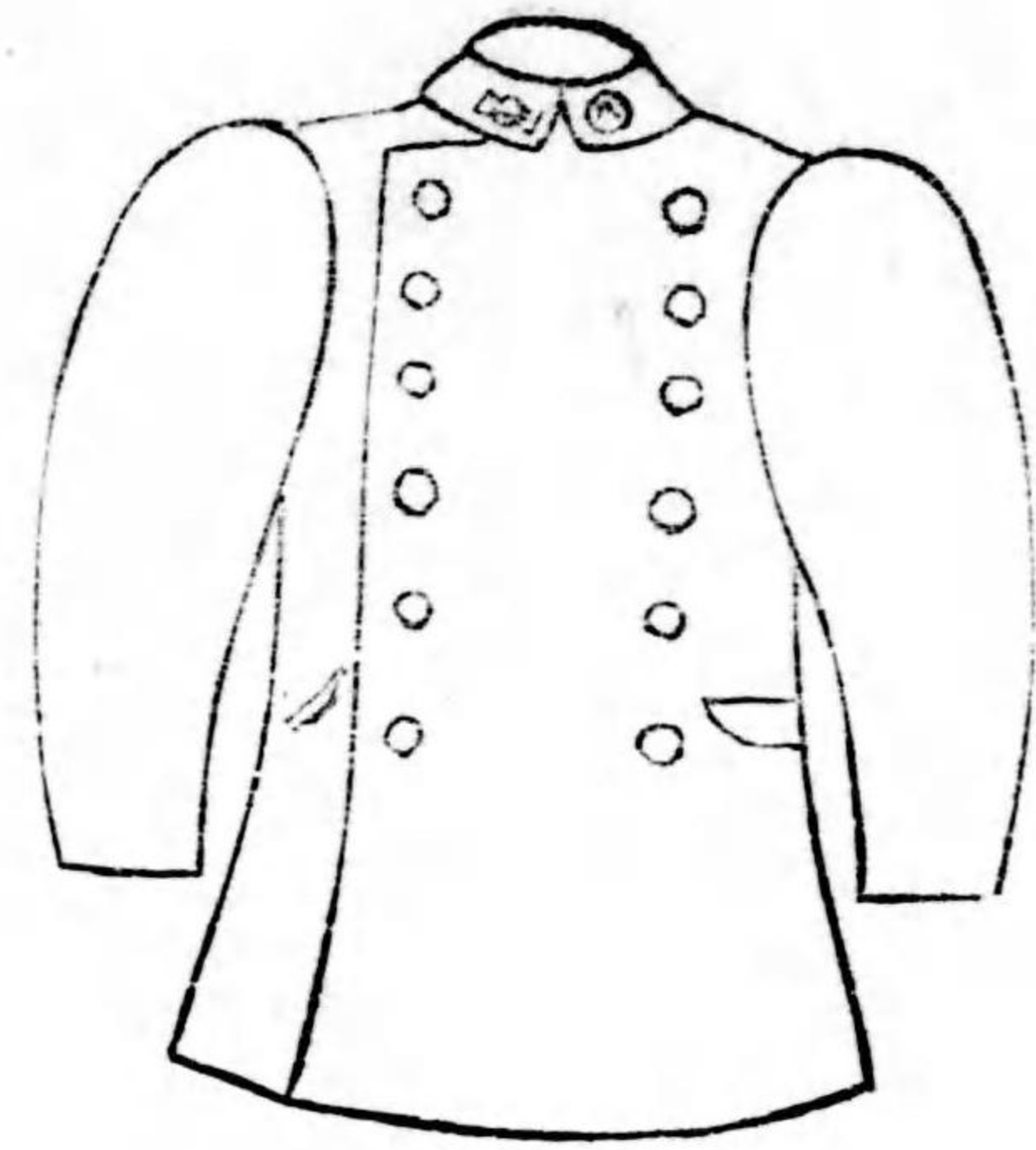


運轉手帽覆



前面

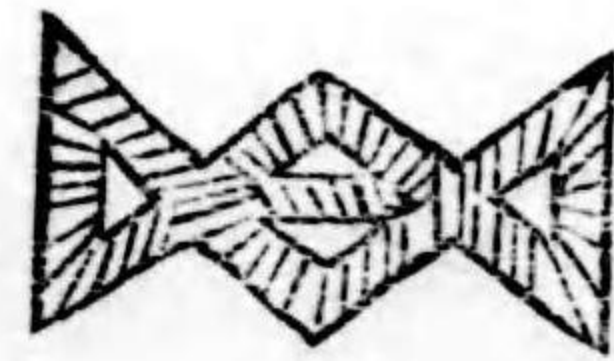
外 自動車運轉手  
套



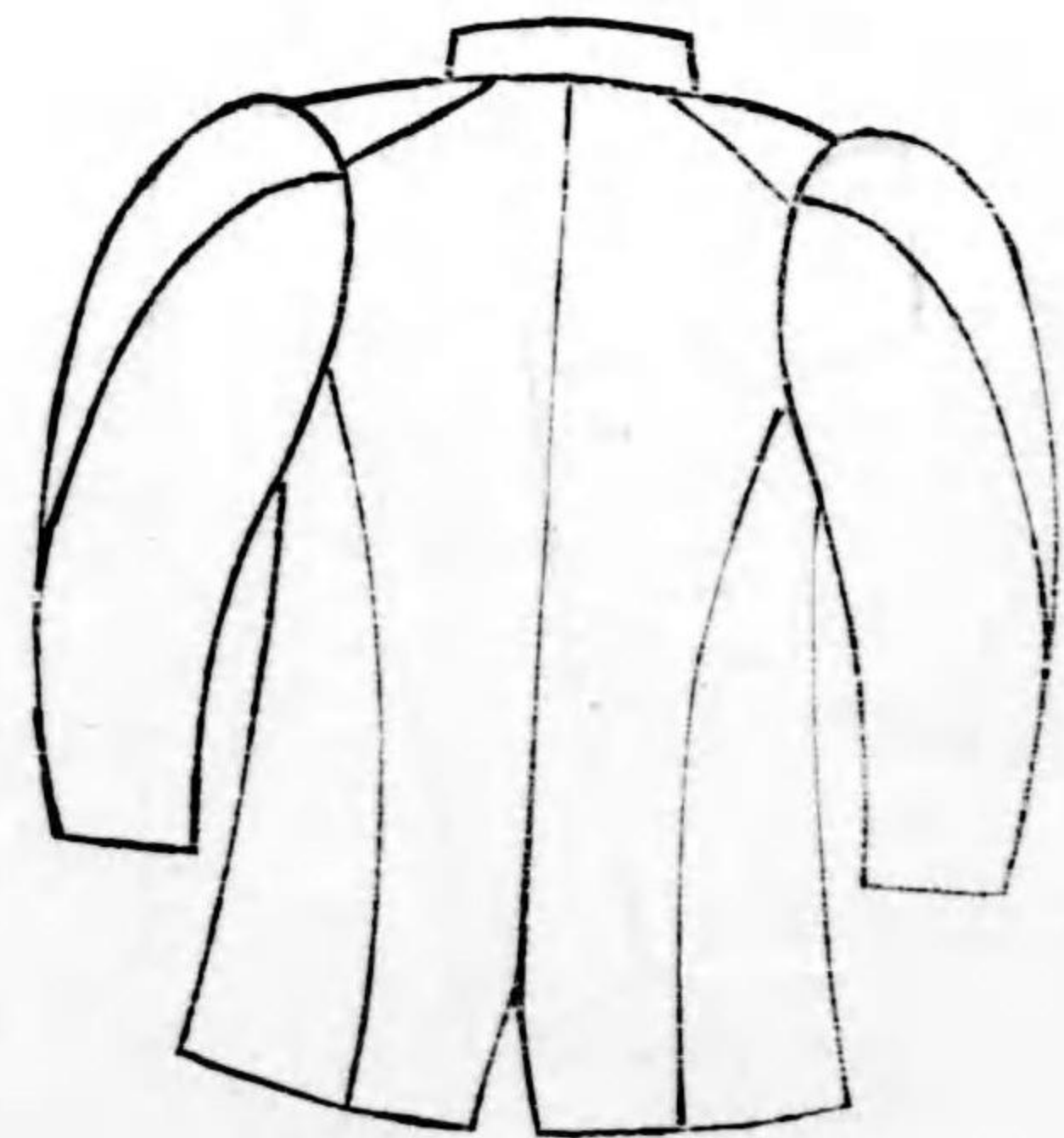
前面  
上衣ノ  
運轉手  
自動車



自動車運轉手襟章



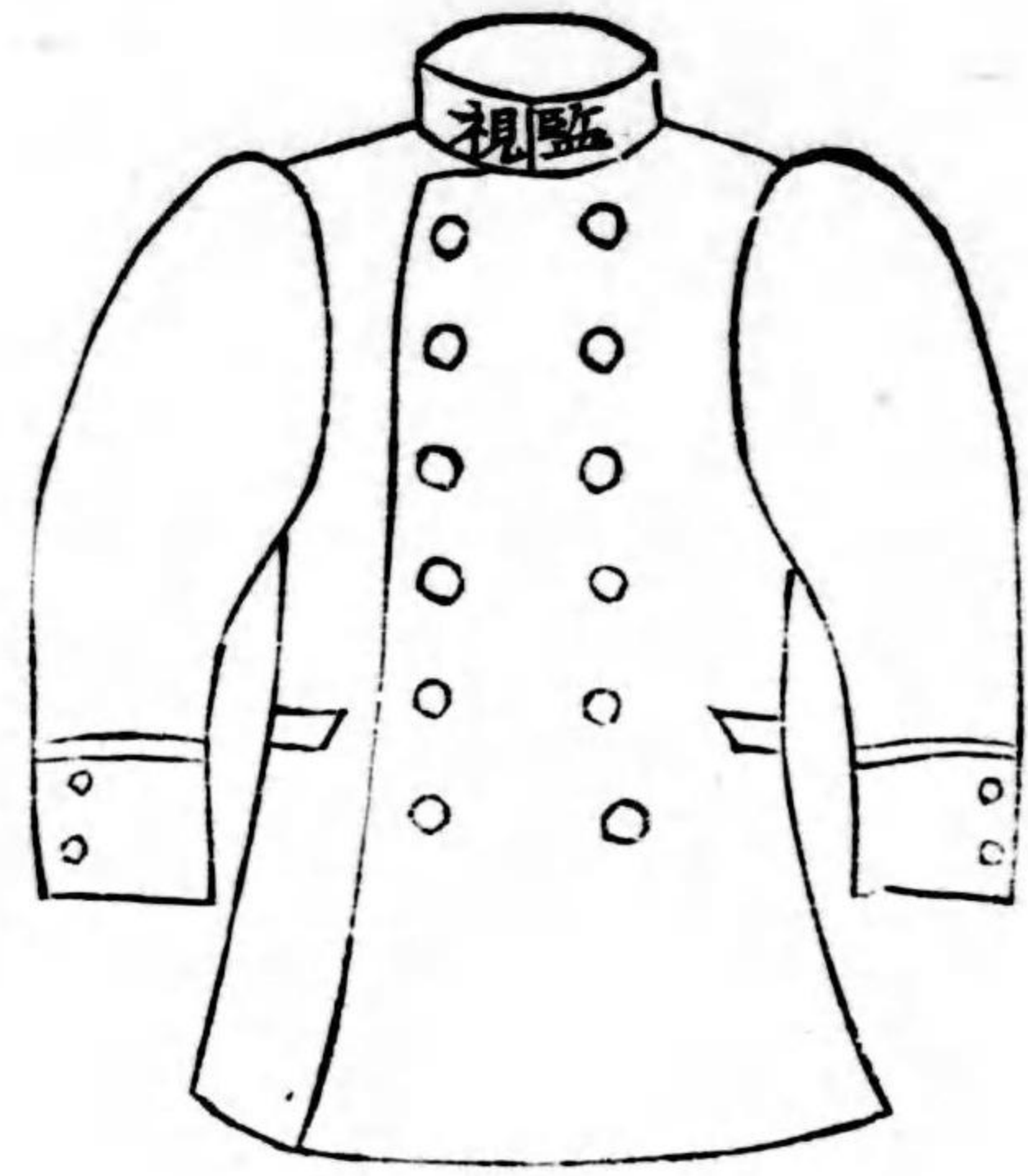
同上



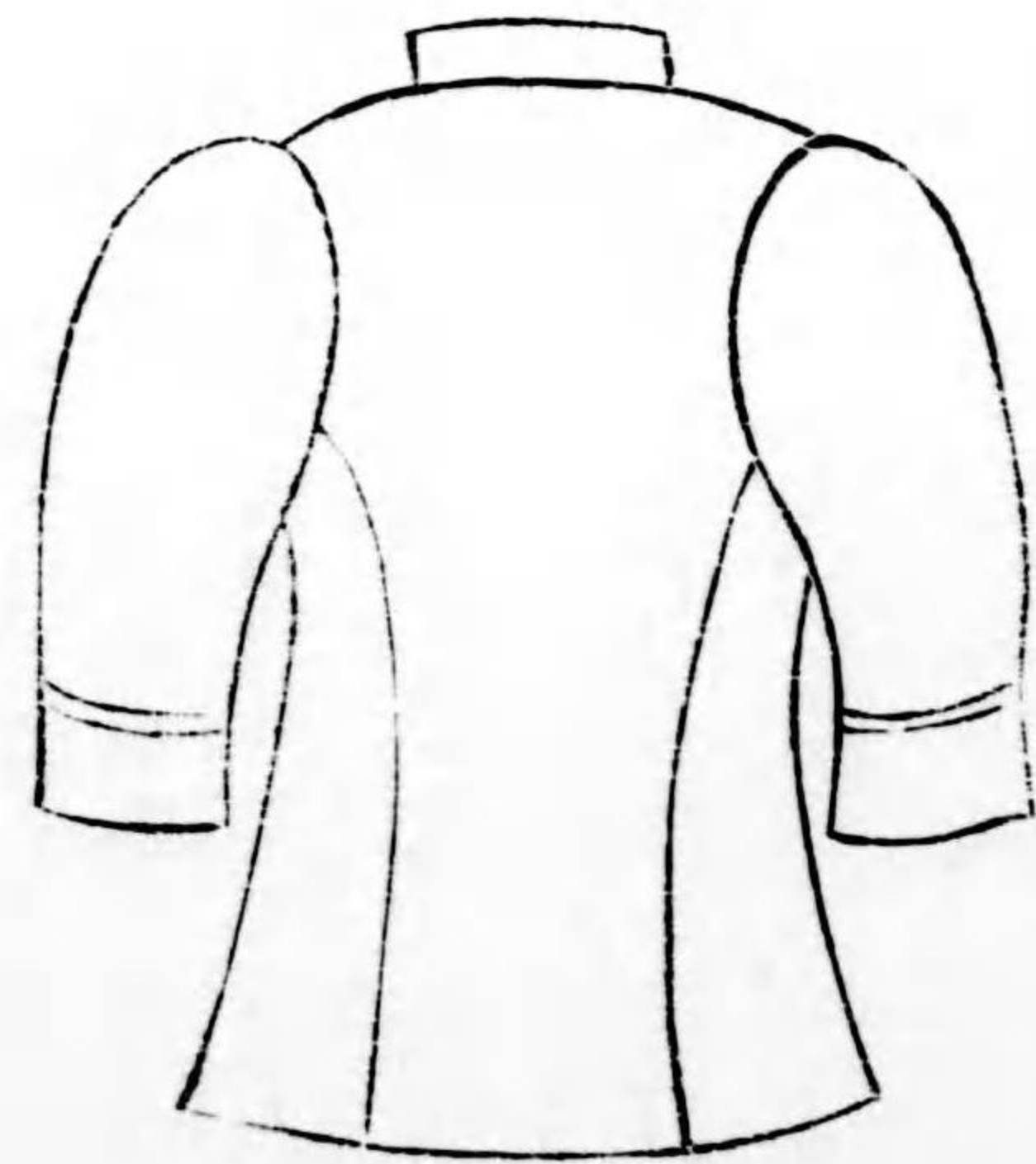
背面  
同上

# 監視

監視襟章

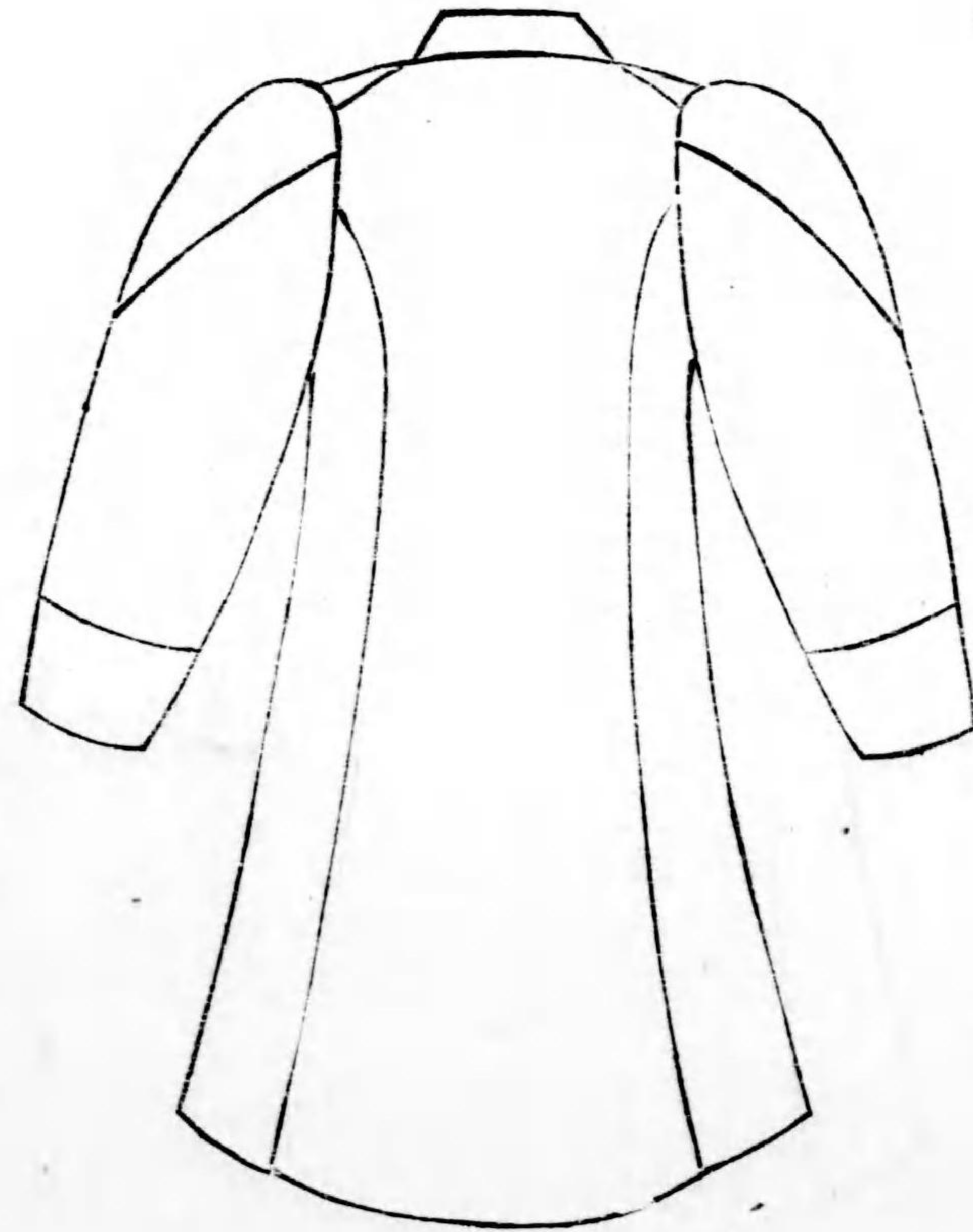


監視上衣前面



全上背面

帽徽章



同上

背面

### 退隱料、遺族扶助料、退職及死亡給與金 支給審査規程

大正三年六月十七日  
達第二十五號 廳 中 一 般

第一條 本市有給吏員ニシテ退隱料、遺族扶助料、退職及死亡給與金ヲ受クヘキ者ノ資格及權利ニ關スル事項ヲ審査スル爲メ左ノ委員ヲ置ク

委員長 一名  
委員 若干名

第二條 委員長ハ助役委員ハ市吏員市醫ノ内ヨリ市長之ヲ命ス

第三條 退隱料、遺族扶助料、退職及死亡給與金ヲ支給スヘキ者アリタルトキハ秘書係ニ於テ豫メ調査ノ上給否ノ資格ニ關シ關係書類ヲ添付シテ審査委員ノ意見ヲ徵スヘシ

第四條 審査委員前條書類ノ回付ヲ受ケタルトキハ慎重審査ノ上可否ノ意見ヲ附シ委員長ヲ經テ秘書係ヘ返付スヘシ但シ市醫ヨリ出ツル委員ハ疾病傷疾ノ當否ノミニ就テ審査スルモノトス

委員ノ意見一致セサルトキハ委員長ハ別ニ其ノ意見ヲ添付スヘシ

第五條 秘書係ニ於テ前條書類ノ返付ヲ受ケタルトキハ直ニ案ヲ具シテ市長ノ決裁ヲ經ヘシ

### 街燈巡視規程

大正三年六月二十九日  
達 第二十七號

第一條 此規程ニ於テ街燈ト稱スルハ市費支辨ニ係ル市内点火ノ電燈及瓦斯燈ヲ云フ  
第二條 街燈巡視(以下單ニ巡視ト稱ス)ノ定員ハ三十人以下トシ土木課員中課長ノ特

命シタルモノヲ以テ之ニ充ツ

巡檢區域及之カ分擔ヲ定ムルコト左ノ如シ

東區

赤塚町	布池町	安房町	板屋町	清水町	東二葉町
西二葉町	土居下町	富澤町	鶴重町	朝日町	久屋町
宮町	筒井町	榎木町	主税町	白壁町	鍋屋町
裏筒井町	古出來町	相生町	大津町	坂上町	城番町
東矢場町	横代官町	葵町	堅代官町	手代町	往還町
平田町	東樟木町	東主税町	東白壁町	前ノ町	山口町
七間町	研屋町	車道町	七小町	黒門町	飯田町
神樂町	小市場町	東門前町	松山町	東新道町	寶町
森下町	八軒家町	長堀町	關鍛冶町	辰巳町	添地町
東魚町	東新町	櫻町	梅枝町	高岳町	杉ノ町

下堅杉町 富士塚町 小川町 東芳野町 車道東町 東本重町  
 中市場町 針屋町 吳服町 伊勢町 百人町 蒲燒町  
 東櫻町 京町 武平町 駿河町 水筒先町 石神堂町  
 石町 東片端町 上堅杉町 東外堀町 新出來町 東袋町  
 七曲町 西新町 長久寺町 萱屋町 舍人町 南外堀町  
 西魚町 芳野町 大曾根町  
 西區 巡視八人ヲ以テ分擔ス

玉屋町 下長者町 平野町 花ノ木町 白堀町 桑名町  
 和泉町 茶屋町 材木町 西萬町 長島町 西柳町  
 東柳町 小舟町 六句町 南鷹匠町 吹出町 上仲町  
 柳町 江川横町 泥江町 上笹島町 米屋町 南外堀町  
 江川町 傳馬町 木挽町 堀内町 江中町 俵町  
 紙漉町 北野町 桶屋町 東萬町 車町 花車町  
 新屋敷町 小鳥町 小田原町 橋詰町 五條町 隅田町  
 裏鹽町 比米町 井桁町 伏見町 西菅原町 園井町  
 上園町 船入町 前ノ川町 樋ノ口町 北鷹匠町 數寄屋町

中區

本町 替地町 澤井町 藪下町 外田町 枝郷町  
 淺間町 上淺間町 下淺間町 馬喰町 塩町 上島町  
 明道町 千歳町 南驛町 奉公人町 北驛町 江戸屋町  
 袋町 八阪町 深井町 手木町 本重町 堀詰町  
 江川端町 臺所町 菅原町 皆戸町 大船町 上長者町  
 押切町 新道町 庭町 山神町 島田町 下園町  
 伊倉町 中ノ町 志摩町 泥町 五平藏町 那古野町  
 島崎町 早苗町 廣井町 長畝町 南押切町 堅三藏町  
 菊井町  
 巡視八人ヲ以テ分擔ス

伊勢山町 南吳服町 南伊勢町 南大津町 南園町 鐵砲町  
 東橋町 下茶屋町 東田町 白山町 富岡町 音羽町  
 東角町 常盤町 春日町 下日置町 上前津町 東瓦町  
 南久屋町 矢場町 南小川町 白川町 西角町 天王崎町  
 岩井町 鷺谷町 上堀川町 下堀川町 天王崎町 東洲崎町  
 下前津町 南禰宜町 内屋敷町 蘇鐵町 下奧田町 奧田町

養老町	橋町	不二見町	南桑名町	南長島町	入江町
小林町	新柳町	八百屋町	末廣町	三輪町	上日置町
役割町	永樂町	榎町	根津町	梅園町	旅籠町
南伏見町	流川町	宮出町	日ノ出町	吾妻町	若松町
城代町	花園町	住吉町	飴屋町	門前町	南辰巳町
古渡町	新榮町	宮前町	塚越町	西塚町	松枝町
西松枝町	鶴舞町	千早町	西境町	前塚町	金澤町
南瓦町	下笹島町	池田町	南鍛冶屋町	月見町	大阪町
梅川町	北禰宜町	蛭子町	西瓦町	榮町	下廣井町
古郷町	葛西町	西脇町	裏門前町	正木町	車道町
七曲町	西新町	南新町	堅三藏町	横三藏町	南武平町
納屋町	水主町	老松町	東陽町	大池町	向田町
長岡町	流町	葉場町	笹島町	藪田町	丸田町
松元町	松重町	板橋町	大井町	西川端町	松島町
西白山町	中ノ町	東川端町	禰宜町	三田町	元田町
東古渡町	古澤町	東雲町	西洲崎町		
巡視九人ヲ以テ分擔ス					

南區

熱田神戸町	熱田内田町	熱田須賀町	熱田市場町	熱田田中町
熱田中瀬町	熱田神宮坂町	熱田富江町	熱田傳馬町	熱田旗屋町
熱田羽城町	熱田大瀬古町	熱田木ノ免町	熱田白鳥町	熱田新尾頭町
熱田尾頭町	熱田西町	熱田東町	熱田新田東組	熱田前新田
千	年	稱永新田	築地	東築地
巡視五人ヲ以テ分擔ス				

第三條 巡視職務ノ概目左ノ如シ

- 一 街燈取付個所ノ適否
- 二 街燈ノ点否及其狀況
- 三 器具其他附屬品ノ損否及其狀況
- 四 其他參考トナルヘキ事項

第四條 巡視ハ一週二回以上經路ヲ異ニシテ巡檢シ十五日間ヲ以テ分擔區域ヲ一巡スヘキモノトス

第五條 巡檢ノ結果ハ事故ノ有無ニ拘ラズ左記様式ニ據リ翌日中ニ報告スヘシ  
巡視ノ勤務時間ハ左ノ區分ニ據ル

- 但シ勤務時間外特ニ巡檢ノ命ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス
- 一 自四月一日至九月十日午後六時後ヨリ午後九時
  - 一 自九月十一日至三月卅一日午後五時後ヨリ午後九時
- 第六條 巡視ハ出務中必ス制服ヲ着用スヘシ
- 但止ムヲ得サル場合ニ於テ許可ヲ得タルトキハ此限ニアラス
- 第七條 巡視ハ街道損傷ノ爲メ危害ノ程度急激ニシテ猶豫シ難シト認ムルトキハ直接會社ニ通知シ同時ニ其旨報告スヘシ
- 第八條 巡視ハ街燈ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘムトスル者ヲ發見シタルトキハ懇切ニ制止シ尙ホ從ハサルトキハ警察官吏ニ之カ處分ヲ求ムヘシ
- 第九條 巡視ハ豫メ交付ヲ受ケタル手帖ニ區劃ヲ附シ左記事項ヲ明記スヘシ
- 一 年月日天候、七曜ノ別
  - 二 巡檢區域及(町名)經路里程
  - 三 街燈ニ關スル事故及其狀況
  - 四 其他後日ノ考証トナルヘキ事項
- 第十條 前條ノ手帖ハ毎月一回之ヲ課長ノ檢閱ニ供シ檢了印ノ押捺ヲ受クヘシ
- 第十一條 此規程ハ大正三年七月十六日ヨリ施行ス
- 樣式

市長 助役 土木課長

大正 年 月 日

街燈巡檢報告

巡視 氏 名

巡檢區域及路程	
街燈事故及其狀況	處分ノ顛未

- 巡檢區域及路程ノ欄ニハ當日巡檢シタル各町名及延長(里數)ヲ記スヘシ
- 街燈事故及其他狀況ノ欄ニハ當日見聞セル一切ノ事故及其狀況ヲ詳細記載スヘシ
- 處分顛未ノ欄ニハ巡視ニ於テ記載ヲ要セス



### 土木課事務處理規程

大正三年七月十日  
達第二十九號

第一條 市役所處務規程第一條ニ依リ土木課ニ左ノ係ヲ置ク

庶務係 土木係 營繕係

第二條 各係主任及係員ノ配屬ハ市長ノ許可ヲ受ケ課長之ヲ定ム

第三條 係主任ハ課長ノ指揮ニ依リ其係ノ事務ヲ執行ス

係主任故障アルトギハ課長ハ其代理者ヲ指定ス

第四條 各係ノ主掌事務ヲ定ムルコト左ノ如シ

庶務係

- 一 文書ノ受發並保存編纂ニ關スル事項
- 二 豫算ノ調査、收支及決算ニ關スル事項
- 三 電柱、瓦斯管、軌道、街燈並本其他公有地ニ在ル建造物埋造物ニ關スル事項
- 四 火防及水防ニ關スル事項
- 五 地理及地籍ニ關スル事項
- 六 官有地及公有水面ニ關スル事項
- 七 公園及名所古蹟ニ關スル事項
- 八 土地收用ニ關スル事項

- 九 土地營造物及物件ノ賣買貸借交換贈與受贈、使用等ノ處分並登記ニ關スル事項
- 十 物品及工用材料ノ保管出納ニ關スル事項
- 十一 統計及報告ニ關スル事項
- 十二 課中他係ノ主掌ニ屬セサル事項

土木係

- 一 道路、橋梁、港灣、河川、溝渠、用惡水路、運河、樋管、堤塘、公共物揚場、並木敷、公園等ノ興廢、維持、保存、並工用材料ニ關スル事項
- 二 交通運輸水利治水設備ノ調査ニ關スル事項
- 三 土地水面ノ測量及調査ニ關スル事項
- 四 樹木ノ植付及培養ニ關スル事項
- 五 土木工事所用材料ノ検査ニ關スル事項
- 六 主掌事務ノ豫算下調ニ關スル事項
- 七 建築及營繕ノ工事作業ニ關スル事項
- 八 建造物ノ調査ニ關スル事項
- 九 建築及營繕工事所用材料ノ検査ニ關スル事項

營繕係

- 一 建築及營繕ノ工事作業ニ關スル事項
- 二 建造物ノ調査ニ關スル事項
- 三 建築及營繕工事所用材料ノ検査ニ關スル事項

四 主掌事務ノ豫算下調ニ關スル事項

第五條 課長ハ前條ニ拘ハラズ課員ヲ指定シテ主掌以外ノ事務ヲ處理セシムルコトヲ得

附則

本規程ハ發布ノ日ヨリ施行ス

二〇〇

### 篤行者表彰規程

大正三年十月二十六日  
告示 第百十七號

二〇一

- 第一條 市住民ニシテ篤行超拔衆人ノ儀表タルヘシト認ムル者ハ市長之ヲ表彰ス
- 第二條 表彰ハ表彰狀並金品ヲ贈與シテ之ヲ行ヒ市公報ヲ以テ之ヲ公示ス
- 第三條 死亡者ニシテ第一條ニ該當スル者ハ本規程ヲ適用スルコトヲ得

助役代決事項

明治四十五年一月十日内訓第一號  
大正四年五月二十六日内訓第一號ヲ以テ改正

- 一 市吏員(課長及係主任ヲ除ク)本縣郡部出張命令ノ件
  - 一 市吏員(課長及係主任ヲ除ク)父母祭日、忌引、缺勤賜暇、轉地療養、歸省旅行、墓參、除服出仕並學校職員父母祭日、忌引、賜暇、歸省旅行、轉地療養、墓參ニ關スル件
  - 一 臨時雇員並使丁、給仕命免進退ニ關スル件
  - 一 輕易ナル事件ニ關スル報告、照會、回答及通牒等ノ件
  - 一 豫定價格内(一廉金百圓未滿ノモノヲ除ク)ニ於ケル請負者決定ノ件
  - 一 金參百圓未滿ノ工事施行並精檢ノ件
  - 一 見積價格金百圓未滿(金參拾圓未滿ノモノヲ除ク)ノ物品購買印刷及修繕ノ件
  - 一 歲入出及雜部金ノ收支命令ノ件
  - 一 補助金交付金請求ノ件
  - 一 法令ニ據ル繰替拂並其辨償請求ニ關スル件(衛生課長代決事  
項ヲ除ク)
- 以上各項ノ事件ト雜モ異例ニ屬シ又ハ重要ト認ムルモノハ特ニ市長ノ決裁ヲ經ルモノトス

### 各課長并係主任代決事項

大正四年五月八日  
依 命 通 牒

各課長并係主任一般ニ亘ル代決事項

- 一 市民呼出ノ件
- 一 課、係員市内出張并乘車許可ノ件
- 一 官公署ノ照會ニ基キ區ニ移牒ノ件
- 一 官公署間附箋往復并添附洩書類進達ノ件
- 一 特ニ意見ヲ附スルヲ要セサル願届等進達及指令傳達ノ件
- 一 主管事務ノ取扱照會ニ對スル回答ノ件

庶務課長代決事項

- 一 市會、市參事會決議報告ノ件
- 一 他ヨリ依頼ニ係ル揭示ノ件
- 一 統計材料蒐集ノ件
- 一 紛來ニ係ル文書返送又ハ移送ノ件
- 一 戸籍及寄留ニ關スル書類移送并該書類ニ係ル照會回答ノ件
- 一 他ノ依頼ニ依リ市豫算決算書、統計書送附并他ヨリ寄贈ニ係ル同上物件受領証差出方

ノ件

土木課長代決事項

- 一 常設工夫進退命免ノ件
- 一 工事材料品出納命令ノ件
- 一 消防ニ對スル斷水通知ノ件
- 一 市費負擔ニ係ル道路堤塘并木敷溝渠等ノ境界及地積調査ノ件
- 一 職工工夫以下忌引缺勤届ノ件

水道課長代決事項

- 一 水道給水條例第五條、第十條、第十四條、第十八條、第二十一條、第二十四條、第三十五條、第四十三條、第四十四條、及第四十五條ニ依ル市長ノ許可、認定又ハ承認ノ件
- 一 水道取附工事竣功承認ノ件
- 一 給水工費ノ見積、精算并給水料査定及工費手数料ノ徵收、還付
- 一 給水工費月賦分納ノ場合ニ提供シタル擔保品ノ收支命令ノ件
- 一 給水工事ニ係ル一時給水停止ノ件
- 一 給水引用ニ關スル告知ノ件

- 一 給水用具(量水器ヲ含ム)ノ賣渡又ハ給水者ヨリ買戻ノ件
- 一 給水ニ關シ市役所名ヲ以テ發スル簡易ナル文書往復ノ件
- 一 給水工事急施ノ場合ニ要スル一廉金拾圓未滿ノ物品購入ノ件
- 一 水道検査員火災報告ノ件
- 一 給水請求及諸届書收受并其檢閱
- 一 職工工夫以下忌引缺勤届ノ件

教育課長代決事項

- 一 學校職員缺勤届ノ件
- 一 學校職員市外居住ノ件
- 一 學校職員除服ノ件
- 一 學校小使命免ノ件
- 一 學校附近新營建設物ニ對スル教育上衛生上ノ利害關係等照會ノ件
- 一 私立學校書類進達ノ件
- 一 市、私立學校ニ對スル諸調査統計等ノ資料照會ノ件(調査結了後要供覽)

勸業課長代決事項

- 一 個人ニ對スル商工業ニ關スル調査應答ノ件
- 一 勸業上ノ統計調査方組合會社個人等へ照會ノ件
- 一 商工業ニ關スル報告書類提出方督促ノ件
- 一 博覽會共進會等賞狀賞牌傳達方通知ノ件

衛生課長代決事項

- 一 精神病者、癩患者、行旅病人及死亡人ニ對スル原籍役場照會并救護費用請求ノ件
- 一 衛生組合役員承認ノ件
- 一 墓地、火葬場、葬儀場使用許可ノ件(月計表提出要供覽)
- 一 傳染病ニ關スル諸証明ノ件

出納、調度係主任代決事項

- 一 一廉金百圓未滿ノ工事請負者決定契約ノ件
- 一 一廉金參拾圓未滿ノ物品購買印刷及修繕ノ件
- 一 豫メ單價ヲ以テ供給者ヲ定メタル物品ノ購買及印刷ノ件
- 一 一廉金拾圓未滿ノ物品賣却ノ件

名古屋市傳染病院職員定員

並給料額規則

大正六年三月十二日  
告示第四十號

第一條 市制第八十五條ニ依リ傳染病院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長	一人	醫 員	三人
調劑員	一人	書 記	二人

第二條 院長ノ給料額ハ名古屋市有給吏員給料額規則第二條ニ依リ醫員、調劑員及書記ノ給料額ハ同第四條並第五條ニ依ル

### 名古屋市傳染病院處務規程

大正六年六月十八日決議  
廳中一般名古屋市傳染病院

三二

第一條 院長ハ市長ノ命ヲ承ケ院務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

院長事故アルトキハ上席醫員之ヲ代理ス

醫員ハ院長ノ命ヲ承ケ患者ノ診療病毒傳播ノ豫防並消毒ニ從事ス

調劑員ハ院長ノ命ヲ承ケ調劑及藥品鑑定ニ從事ス

書記ハ院長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第二條 院長ハ毎年一月十五日限リ前一ケ年間ノ事務成績ヲ市長ニ報告スヘシ

第三條 宿直ハ醫員一名書記一名其他院長ニ於テ必要ト認メタル者ヲシテ之ヲ爲サシム

ルモノトス

第四條 本規程施行ニ關シ必要ナル細則ハ市長ノ認可ヲ經テ院長之ヲ定ム

第五條 本規程ニ定メタルモノ、外名古屋市役所處務規程ヲ準用ス

附 則

第六條 本規程ハ大正六年四月一日ヨリ施行ス



### 名古屋市傳染病院處務細則

大正六年六月十八日決裁

#### 第一章 職務分掌

第一條 本院ニ醫務室、藥室、事務室ヲ置ク其分掌左ノ如シ

##### 醫務室

- 一、患者診療ニ關スル事項
- 二、細菌檢査病理檢査ニ關スル事項
- 三、病床日誌ニ關スル事項
- 四、患者飲食物ノ指定並ニ之カ檢査ニ關スル事項
- 五、清潔及消毒其他衛生方法ノ指定監督ニ關スル事項
- 六、病室ノ整理ニ關スル事項
- 七、患者配當ニ關スル事項
- 八、病室ノ非常準備ニ關スル事項
- 九、統計ニ關スル事項

##### 藥室

- 一、調劑及製煉ニ關スル事項
- 二、藥品其他ノ鑑定ニ關スル事項

- 三、 飲食物ノ試験ニ關スル事項
- 四、 處方録保管ニ關スル事項
- 五、 器具機械及藥品其他物品ノ受拂並ニ保管ニ關スル事項
- 六、 藥室及附屬室ノ整理並ニ取締ニ關スル事項
- 七、 藥物ノ統計及報告材料ニ關スル事項

事務室

- 一、 患者入退院患者名簿及付添人、面會人ニ關スル事項
- 二、 患者並ニ付添人所持金品ノ保管ニ關スル事項
- 三、 文書ノ收受發送及保管ニ關スル事項
- 四、 公印保管ニ關スル事項
- 五、 院内取締ニ關スル事項
- 六、 清潔及消毒其他衛生方法ノ實施ニ關スル事項
- 七、 職員其他ノ進退身分ニ關スル事項
- 八、 勤怠簿ノ調査ニ關スル事項
- 九、 雇傭員ノ勤惰監督ニ關スル事項
- 十、 調度ニ關スル事項
- 十一、 營繕(電燈、水道ヲ含ム)ニ關スル事項

- 十二、 物品ノ受拂及保管ニ關スル事項
- 十三、 賄監督ニ關スル事項
- 十四、 統計及報告ニ關スル事項
- 十五、 他室ニ屬セサル事項

第二章 醫務室

- 第二條 醫員ハ患者診療、細菌検査、病理検査、病床日誌作製其他豫防消毒一般衛生事務ニ從事スヘシ
- 第三條 醫員ハ院長回診ノ際各患者ニ就キ病床經過及其他必要事項ヲ申告スヘシ
- 第四條 醫員回診ハ毎日午前午後各一回トス但重症患者ニ對シテハ此限ニアラス
- 第五條 醫員ハ各患者ノ病床日誌ヲ作製シ醫長ノ閱覽ニ供スヘシ
- 第六條 醫員ハ細菌検査及病理検査ヲ行ヒタル場合ハ其成績ヲ検査簿ニ記載スヘシ
- 第七條 醫員ハ患者ノ食品ヲ検査シ其適否ヲ指示スヘシ
- 第八條 患者入院ニ際シテハ醫員ハ直ニ之カ診察シ其收容スヘキ病室ヲ指定シ看護婦ヲシテ之カ準備ヲ爲サシムヘシ
- 第九條 醫員新入院患者ヲ診察シタルトキハ左記各項ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一、 處方録及病床日誌ヲ調製スルコト
- 二、 患者ニ對シ特ニ注意スヘキ点ハ之ヲ看護婦ニ指示シ置クコト

第十條 醫員ハ特ニ病室ノ清潔並ニ整頓ニ注意スヘシ

第十一條 醫員ハ非常事變ノ場合患者ノ處置ニ關シ常ニ左記各項ノ準備ヲ爲シ置クヘシ  
一、入院患者中擔送ヲ要スルモノハ其病室入口又ハ寢臺ニ赤札ヲ護送ヲ要スルモノハ青札ヲ掲ケ置クコト

二、非常用擔架及背負紐ハ常ニ各病室ノ入口ニ備ヘ置クコト

三、患者及付添人ニハ豫メ非常立退所ヲ知ラシメ置クコト

四、非常事變ノ場合患者ニ對スル處置ハ看護婦ヲシテ常ニ之ヲ演習セシムルコト

第十二條 醫員ハ患者病勢増進危篤死亡ノ場合ハ直ニ其氏名ヲ事務室ニ通報スヘシ

第十三條 醫員院內感染者ヲ診斷シタルトキ又ハ患者死亡シタルトキハ直ニ届書ヲ作成シ事務室ニ回付スヘシ但全治亦ハ事故退院ノ場合又同シ

第十四條 入院患者ヲ轉室セシメタルトキハ直ニ事務室ヘ通知スヘシ

第十五條 病室ニ必要ナル器具機械ハ帳簿ニ依リ看護婦長ニ捺印セシメ置クヘシ

第十六條 隔離者收容ノ場合ハ一日二回(午前午後)健康診斷ヲ施行シ其狀況ヲ記載捺印シ院長ニ報告スヘシ

第十七條 醫員ハ常ニ看護婦ニ對シ修得シアル學科並ニ術科ニ付テ之ヲ練習セシムヘシ

第十八條 醫員ハ常ニ小使及消毒人夫並ニ洗濯婦等ニ對シ傳染病大意消毒法大意等ヲ講話スヘシ

話スヘシ

第十九條 醫員ハ治療並ニ衛生記事ノ統計ヲ作製シ翌年一月十日迄ニ院長ニ提供スヘシ

第三章 藥 室

第二十條 藥室ハ治療及檢査用藥品ヲ貯藏シ調劑員之カ出納ヲ爲スモノトス

第二十一條 調劑員ハ藥品ノ調劑、鑑定、飲食物、化學的檢査ニ従事スルモノトス

第二十二條 調劑員ハ藥室及附屬室ニ取締ノ責ニ任シ調劑器具等ハ一定ノ場所ニ整置スヘシ

第二十三條 調劑ハ總テ醫員ノ處方ニ依ルヘシ

第二十四條 内服藥、外用藥、消毒藥等ハ調劑員之ヲ看護婦ニ交付シ一々其用法ヲ指示スヘシ

第二十五條 調劑員調劑シタルトキハ之ニ捺印スヘシ

第二十六條 調劑員ハ退院患者ノ處方録ヲ取纏メ保管スヘシ

第二十七條 調劑員鑑定並ニ藥品及飲食物檢査ヲ爲シタルトキハ其成績ヲ檢査簿ニ記入シ院長ニ報告スヘシ

第二十八條 調劑員ハ常ニ院內各所配置ノ消毒藥ニ注意シ空乏ナカラシムヘシ

第二十九條 調劑員ハ治療及調劑器具受拂簿並藥品、治療用消耗品受拂簿ヲ備ヘ其出納ヲ詳記スヘシ

第三十條 調劑員ハ藥物消費統計(價格ヲモ記入セル)ヲ作製シ之ヲ月表及年表ニ區分シ

月表ハ翌月五日マテニ年表ハ翌年一月十日迄ニ院長ニ提出スヘシ

第四章 事務室

第三十一條 事務室ハ院内ニ於ケル庶務、會計及雇傭員ノ勤惰ヲ監督スルモノトス  
第三十二條 事務室ニ主任ヲ置キ主席書記之レニ任ス

第三十三條 患者ノ入院ハ左ノ手續ニ依リ處置スルモノトス

一、患者入院シタルトキハ患者送付狀ニ依リ患者臺帳ニ記入シ入院時刻ヲ添記シ醫務室ニ回付スヘシ

二、患者ノ住所氏名年齢並ニ入院月日ヲ記シタル名標ヲ看護婦ニ交付シ之ヲ病院入口ニ掲ケシムヘシ

三、患者ノ轉歸及院内感染者ノ通知ヲ受ケタルトキハ臺帳ニ記入シ市衛生課ニ通報ノ手續ヲ爲スヘシ但患者全治ノ場合ハ家族或ハ其知己ニ渡シ未治ノ患者ニシテ他病院へ轉送ノ者ハ其筋ノ許可ヲ受クヘシ死亡者ハ別ニ定ムル内規ニ依リ之ヲ取扱フ

第三十四條 書記ハ公印ヲ保管スヘシ公印ハ左ノ如シ

名古屋市長之印  
名古屋市長之印  
傳染病院長之印  
傳染病院長之印

第三十五條 書記ハ病院ニ關スル細大ノ事項ニ注意シ之ヲ日誌ニ記載スヘシ

第三十六條 書記ハ時々院内ヲ巡視シ一般ノ取締ニ任スヘシ

第三十七條 書記ハ患者滋養品、食品ノ受入及交付簿ヲ備ヘ醫員ノ處方ニ依リ各賄人ヨリ納入セシメノ力ヲ拂フ明記スヘシ

書記ハ入院患者ノ食費、藥價ヲ毎月末日並ニ退院ノ際精算シ本市收入役ニ納入セシムルモノトス但其納入ニ堪ヘサル者アリタルトキハ之カ手續ヲナサシムヘシ

第三十八條 書記ハ備品受拂簿消耗品受拂簿ヲ作製シ其出納ヲ詳記スヘシ

第三十九條 書記ハ器具機械並ニ消耗品等ノ購求修理ヲ要スルトキハ院長ノ決裁ヲ經テ市長ニ請求スヘシ

第四十條 書記ハ院内一般營造物ニ注意シ修繕並ニ改造新設ヲ要スルトキハ院長ノ決裁ヲ經テ市長ニ請求スヘシ

第四十一條 本院ニ到達ノ文書ハ總テ書記ニ於テ收受シ其取扱ハ最迅速確實ヲ旨トシテ普通文書ハ直ニ開封シ文書收受簿ニ登錄シ本書ニハ收受月日及番號ヲ記シ院長ノ閱覽ニ供シ關係文書ハ醫員調劑員ノ回覽ニ付スヘシ但親展文書ハ封緘ノ儘文書收受簿ニ登錄シ院長ニ差出スヘシ

第四十二條 電報ヲ受ケタルトキハ他ノ文書ニ先ダチ前條ノ手續ヲナスヘシ

第四十三條 患者及付添人宛文書ヲ受タル場合ハ受授簿ニ發信人及受信人ノ氏名ヲ記シ看護婦長ニ交付捺印セシムヘシ電報收受ノ場合亦同シ

第四十四條 書記ハ雇傭員ノ勤務ヲ監督シ時々其情況ヲ院長ニ申告スヘシ

第四十五條 書記ハ賄所ヲ監督シ特ニ清潔ニ注意スヘシ

一、病室其他病毒汚染ノ疑ヒアル場所ヨリ持チ來タリタル食物並ニ器具ハ消毒施行ノ上ニアラサレハ取扱ハシムヘカラス

二、厨夫ニ對シテハ特ニ身體ノ清潔ヲ保持セシメ時々健康診斷ヲ受ケシムヘシ

第四十六條 患者携帶金品ノ取扱ハ左ノ手續ニ依ルヘシ

一、患者ハ金錢其他貴重品及病室ニ必要ナキ物品ヲ病室内ニ携帶スルコトヲ得サルモノトス

二、患者ノ病室内ニ携帶セサル物品ハ一々帳簿ニ記入シ消毒ノ上事務室ニ於テ之ヲ保管スヘシ但帳簿へ記入ノ際ハ患者又ハ付添人ヲ立會ハシムルヲ要スルモ患者無意識ナルカ或ハ付添人ナキトキハ書記ニ於テ調査ノ上其旨帳簿ニ記入シ保管スルモノトス

三、保管スヘキ物品ハ木札ヲ付シ之ニ氏名入院番號ヲ記シ置クヘシ

四、患者ノ携帶品ニシテ汚染甚シク再ヒ其用ニ堪ヘスト認メタル者ハ患者或ハ付添人ニ承諾セシメ之ヲ焼却スルコトヲ得但焼却シタル場合ハ其理由ヲ帳簿ニ明記シ置クヘシ

五、事務室保管ノ携帶品ヲ還付セントスルトキハ帳簿ト對照シ正當受領人タルコトヲ調査シタル上交付捺印セシムヘシ

三三〇

第四十七條 書記ハ患者ノ病狀増進危篤死亡等ノ通知ヲ受タルトキハ適宜ノ方法ニ依リ可及的速ニ其家族若ハ關係人ニ通知スヘシ

第四十八條 隔離者收容ノ場合ハ別ニ定ムル規程ニ依ル

第四十九條 書記ハ毎年一月十日迄ニ前一ケ年間ノ所管事務成績ヲ院長ニ提出スヘシ

第五十條 事務室ニ院内簿冊目錄ヲ備ヘ置クヘシ

第五章 機關手

第五十一條 機關手ハ事務室ニ屬シ書記ノ命ヲ受ケ火夫ヲ使役シ蒸氣消毒器及機關ノ取扱並ニ運用ニ從事スルモノトス

第五十二條 機關手ハ機關ノ使用期間ニ注意シ檢査上遺漏ナキヲ期スヘシ

第五十三條 機關手ハ機關室及消毒室ノ整理清潔ニ注意シ特ニ火氣ノ取扱ニ注意スヘシ

第五十四條 機關手ハ燃料蒸氣等ノ節約ニ注意シ毎月一回燃料ノ使用高其他必要ナル事項ヲ事務室ニ報告スヘシ

第六章 看護婦

第五十五條 看護婦中看護婦長一名同副長一名ヲ置ク副長ハ婦長ヲ補佐シ婦長事故アルトキハ代理スルモノトス

第五十六條 婦長ハ患者ノ看護病室其他看護婦付添人等ノ取締ニ關スル事務ニ從事スヘシ

- 第五十七條 婦長ハ治療機械器具其他病室備付物品保管ノ責ニ任スヘシ
- 第五十八條 婦長ハ患者ノ看護及病室ノ整理ニ關シテハ醫員ノ指揮ヲ受ケ其他ノ事務ニ關シテハ書記ノ指揮ヲ受ケヘシ
- 第五十九條 婦長ハ醫員ノ指示ニ依リ看護婦ニ勤務ノ割當ヲ爲シ患者ノ看護及豫防消毒上ノ注意ヲ與ヘ之カ實行ヲ督勵スヘシ
- 第六十條 婦長ハ時々病室ヲ巡視シ物品ノ整否及看護婦ノ勤怠ニ注意スヘシ
- 第六十一條 婦長ハ醫員回診ノ節隨從スヘシ
- 第六十二條 看護婦ハ時々病室ノ内外ヲ掃除シ常ニ清潔ヲ保持シ猶醫員ノ命ヲ受ケ検査室ノ整理清潔ニ任シ雜務ニ從事スヘシ
- 第六十三條 看護婦ハ病室ノ火氣ニ注意シ疎虞ノコトナカラムヘシ
- 第六十四條 看護婦患者入院ニ際シテハ醫員ノ命ヲ受ケ病室ヲ準備シ速ニ收容ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第六十五條 看護婦重症患者ニ對シテハ常ニ其看待ヲ怠タラス時々醫員ニ其病狀ヲ申告スヘシ
- 第六十六條 患者死亡シタルトキハ當該看護婦ハ直ニ醫員及事務室ニ報告シ死體ハ別ニ定ムル内規ニ依リ處置スヘシ
- 第六十七條 看護婦患者及付添人ヨリ信書又ハ物品ノ發送ヲ委託セラレタルトキハ消毒

ノ上事務室ニ提出スヘシ看護婦自己ノ書信發送ノ場合亦同シ

- 第六十八條 看護婦ハ院内ト雖モ猥リニ無用ノ箇所ニ出入スヘカラス
  - 第六十九條 看護婦外出セントスルトキハ消毒ノ上醫員ノ承認ヲ得テ事務室ニ届出ヘシ歸院シタルトキ亦同シ
  - 第七十條 看護婦ノ外出ハ勤務時間外トス但止ムヲ得サル場合ハ此限ニ非ス
  - 第七十一條 臨時雇入看護婦ハ婦長ノ指揮監督ヲ受ケ本細則ヲ遵守スヘシ
- 第七章 宿 直
- 第七十二條 宿直員ハ院内ニ非常事變アルトキハ同心得ニ依リ處置スヘシ
  - 第七十三條 宿直醫員ハ在院患者ニ注意シ重症者ニ對シテハ殊ニ看護治療ニ遺漏ナキヲ期スヘシ
  - 第七十四條 宿直醫員並ニ書記ハ宿直中ノ事項ヲ宿直日誌ニ記載スヘシ
  - 第七十五條 宿直書記ハ院内ヲ巡視シ警火ニ注意シ且ツ雇傭員ノ風紀ヲ取締ルヘシ

名古屋市鴨浦工場職員定員  
並給料額規則

大正六年三月十二日  
告示第四十一號

第一條 市制第八十五條ニ依リ鴨浦工場ニ左ノ職員ヲ置ク

技師 一人 技手 二人 書記 二人

第二條 職員ノ給料額ハ名古屋市有給吏員給料額規則ニ依ル

名古屋市屠場職員定員  
並給料額規則

大正六年三月十二日  
告示第四十二號

- 第一條 市制第八十五條ニ依リ屠場ニ左ノ職員ヲ置ク  
場長(兼任) 一人 書記 二人
- 第二條 職員ノ給料額ハ名古屋市有給吏員給料額規則ニ依ル



名古屋市八事墓地職員定員  
並給料額規則

大正六年三月十二日  
告示第四十三號

第一條 市制第八十五條ニ依リ八事墓地ニ左ノ職員ヲ置ク  
書記 二人  
第二條 職員ノ給料額ハ名古屋市有給吏員給料額規則ニ依ル

號 鐘 ノ 件

大正三年二月二十七日  
達 第 四 號

市長(市長事故アルトキハ其代理者)退廳シタルトキ又ハ市長退廳セサルモ當日ノ事務ヲ  
處理シ了リタル者ニ退出ヲ許ス場合ハ號鐘ヲ以テ之ヲ報ス

第四類  
給  
與

第三類 職制及應規

二百四

1111

第四類  
給  
與

第三類 職制及廳規

二百四

市吏員以下給料支給規程	一	遺族扶助料條例	四五
市有給吏員給料額規程	三	遺族扶助料條例施行細則	四七
市長助役收入役給料條例	五	傳染病豫防救治者手當支給規程	四九
市吏員以下賄料支給規程	七	小學校教員特別給與規程	五一
市吏員使丁給仕等賞與手當支給規程	九	市立學校々醫年手當金支給內規	五三
給料其他諸給與金ヲ受クヘキ者死亡シ遺族ナキ場 合支拂ノ件	一一	學校幼稚園職員使丁賞與ニ關スル件	五五
旅費請求書ニ宿所記載ノ件	一三	高等小學校書記死亡ノ節給料支給方	五七
市吏員以下給料支給規程ノ文意	一五	掃除監督長及掃除監督被服料支給規程	五九
轉任轉職ノ場合ニ於ケル給料支給方ノ件	一七	掃除巡視給與品及貸與品規則	六一
市吏員休職及特別給與規程	一九	掃除巡視給與品及貸與品規則	六三
内國旅費規則	二一	守衛以下給與品及貸與品規則	六五
外國旅費規則	二五	水道検査員水道巡視被服給與規則並守衛以下給與 品及貸與品規則施行細則	六七
市内旅費規程	二七	事務員技術員臨時雇等ニ市内旅費及賄料支給ノ件	七一
名譽職員費用辨償規程	三一	吏員出張ノ際電車利用ノ件	七三
退職及死亡給與金條例	三三	勲章貸與內規	七五
退職料條例	三五		
退職料條例施行細則	四一		

名古屋市吏員以下給料支給規程

明治四十五年三月三十日  
告示 第四十五號

- 第一條 年俸ハ年額ヲ十二分シ其月額ヲ月俸ハ其月分ヲ各毎月二十六日之ヲ支給ス
- 第二條 日給ハ總テ勤務日數ニ依リ支給ス但欠勤中ニアル休應日數ハ勤務日數ニ加算セ  
ス
- 日給ハ前月二十六日ヨリ(毎年四月ニ限リ四月一日ヨリ)又就職ノ月ハ就職ノ日ヨリ其月二十五日迄ノ給料ヲ毎月末日之  
ヲ支給シ毎年三月二十六日ヨリ末日迄ノ給料ハ四月ニ於テ支給ス
- 第三條 新任ノ者ハ就職ノ當日ヨリ増給減給ノ者ハ發令ノ翌日ヨリ轉任轉勤ノ者ハ發令  
當日迄日割ヲ以テ支給ス
- 第四條 退職又ハ死亡ノ月ニ在リテハ年俸ハ其當月分ノ月額月俸ハ其當月分ノ全額ヲ支  
給ス但第六條減給ノ場合ニ於テハ其額ニ依ル
- 第五條 退職ノ者事務引繼ノ爲メ出務スルトキハ其間從前ノ俸給ニ依リ日割ヲ以テ支給  
ス但年俸月俸ヲ受クルモノニシテ退職セシ月ニ在リテハ支給ノ限ニアラス
- 第六條 年俸月俸ハ病氣ノ爲メ執務セサルコト九十日ヲ超ユル者及私事故障ニ依リ執務  
セサルコト三十日ヲ超ユル者ハ其日數ニ對スル俸給ノ半額ヲ減ス但職務ノ爲メ傷疾ヲ  
受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者及服忌ヲ受クル者ハ此限ニアラス
- 第七條 俸給支給上日割計算ヲ要スルトキハ其月分ノ俸給額ニ支給スヘキ日數ヲ乘シ其

市吏員以下給料支給規程	一	遺族扶助料條例	四五
市有給吏員給料規程	三	遺族扶助料條例施行細則	四七
市長助役收入役給料條例	五	傳染病豫防救治者手当支給規程	四九
市吏員以下賄料支給規程	七	小學校教員特別給與規程	五一
市吏員使丁給仕等賞與手当支給規程	九	市立學校々醫年手當金支給內規	五三
給料其他諸給與金ヲ受クヘキ者死亡シ遺族ナキ場 合支拂ノ件	一一	學校幼稚園職員使丁賞與ニ關スル件	五五
旅費請求書ニ宿所記載ノ件	一三	高等小學校書記死亡ノ節給料支給方	五七
市吏員以下給料支給規程ノ文意	一五	掃除監督長及掃除監督被服料支給規程	五九
轉任轉職ノ場合ニ於ケル給料支給方ノ件	一七	掃除巡視給與品及食與品規則	六一
市吏員休職及特別給與規程	一九	掃除巡視給與品及食與品規則	六三
内國旅費規則	二一	守衛以下給與品及食與品規則	六五
外國旅費規則	二五	水道檢査員水道巡視被服給與規則並守衛以下給與 品及食與品規則施行細則	六七
市内旅費規程	二七	事務員技術員臨時雇等ニ市内旅費及賄料支給ノ件	七一
名譽職員費用辨償規程	三一	吏員出張ノ際電車利用ノ件	七三
退職及死亡給與金條例	三三	職章貸與內規	七五
退職料條例	三五		
退職料條例施行細則	四一		

名古屋市吏員以下給料支給規程

明治四十五年三月三十日  
告示 第四十五號

- 第一條 年俸ハ年額ヲ十二分シ其月額ヲ月俸ハ其月分ヲ各毎月二十六日之ヲ支給ス
- 第二條 日給ハ總テ勤務日數ニ依リ支給ス但欠勤中ニアル休應日數ハ勤務日數ニ加算セ  
ス
- 日給ハ前月二十六日ヨリ(毎年四月ニ限リ四月一日ヨリ)又就職ノ月ハ就職ノ日ヨリ其月二十五日迄ノ給料ヲ毎月末日之  
ヲ支給シ毎年三月二十六日ヨリ末日迄ノ給料ハ四月ニ於テ支給ス
- 第三條 新任ノ者ハ就職ノ當日ヨリ増給減給ノ者ハ發令ノ翌日ヨリ轉任轉勤ノ者ハ發令  
當日迄日割ヲ以テ支給ス
- 第四條 退職又ハ死亡ノ月ニ在リテハ年俸ハ其當月分ノ月額月俸ハ其當月分ノ全額ヲ支  
給ス但第六條減給ノ場合ニ於テハ其額ニ依ル
- 第五條 退職ノ者事務引繼ノ爲メ出務スルトキハ其間從前ノ俸給ニ依リ日割ヲ以テ支給  
ス但年俸月俸ヲ受クルモノニシテ退職セシ月ニ在リテハ支給ノ限ニアラス
- 第六條 年俸月俸ハ病氣ノ爲メ執務セサルコト九十日ヲ超ユル者及私事故障ニ依リ執務  
セサルコト三十日ヲ超ユル者ハ其日數ニ對スル俸給ノ半額ヲ減ス但職務ノ爲メ傷痍ヲ  
受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者及服忌ヲ受クル者ハ此限ニアラス
- 第七條 俸給支給上日割計算ヲ要スルトキハ其月分ノ俸給額ニ支給スヘキ日數ヲ乘シ其

月ノ現日數ヲ以テ除シ支給金額ヲ定ム但俸給支給上錢位未滿ノ端數ハ之ヲ切捨トス  
第八條 俸給支給日休日ニ當ルトキハ繰上支給ス

### 名古屋市有給吏員給料額規則

改正 大正二年六月六日 大正三年三月十二日 大正六年三月十二日  
告示第九十號 告示第二十二號 告示第四十五號

明治四十五年三月二十五日 告示第十七號

第一條 區長主事ノ給料ハ年俸トシ左ノ等級ニ分チ之ヲ支給ス

- 一級 千貳百圓
- 二級 千百圓
- 三級 千圓
- 四級 九百圓
- 五級 八百圓
- 六級 七百圓
- 七級 六百圓

前項ノ吏員ニシテ最上俸ヲ受ケ滿三ヶ年ヲ超ヘ事務ニ熟達セル者ハ特ニ年俸千五百圓迄ヲ給スルコトヲ得

第二條 技師ノ給料ハ年俸トシ左ノ等級ニ分チ之ヲ支給ス

- 一級 貳千圓
- 二級 千九百圓
- 三級 千八百圓
- 四級 千七百圓
- 五級 千六百圓
- 六級 千五百圓
- 七級 千四百圓
- 八級 千參百圓
- 九級 千貳百圓
- 十級 千壹百圓
- 十一級 千圓
- 十二級 九百圓

十三級 八百圓  
十四級 七百圓

第三條 視學ノ給料ハ年俸トシ左ノ等級ニ分チ之ヲ支給ス

一級 千五百圓 二級 千四百圓  
三級 千參百圓 四級 千貳百圓  
五級 千百圓 六級 千圓  
七級 九百圓 八級 八百圓  
九級 七百圓 十級 六百圓

第四條 市書記、區書記及技手ノ給料ハ月俸トシ左ノ等級ニ分チ之ヲ支給ス

一級 上七拾五圓 下六拾五圓  
二級 上五拾五圓 下四拾五圓  
三級 上四拾五圓 下參拾五圓  
四級 上參拾五圓 下貳拾五圓  
五級 上貳拾五圓 下拾五圓  
六級 上拾五圓 下拾圓  
七級 上拾圓 下貳圓

前項ノ吏員ニシテ最上俸ヲ受ケ滿三ケ年ヲ超エ事務ニ熟達セル者ハ特ニ月俸百貳拾圓迄ヲ給スルコトヲ得

第五條 市書記、區書記及技手ノ俸給ハ月俸四拾圓未滿ノ者ニ限り級俸ニ拘ハラズ適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得

### 市長助役收入役給料條例

明治四十三年十月廿一日  
條例 第六號

第一條 市制第七十六條ニ依リ市長助役及收入役給料額ハ本條例ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 市長助役收入役ノ給料ハ年俸トシ市長ハ五千圓以上壹萬圓以下助役ハ千圓以上參千圓以下收入役ハ六百圓以上千五百圓以下ノ範圍内ニ於テ市會ノ決議ヲ經テ之ヲ定ム



### 市吏員以下賄料支給規程

明治二十二年  
第十號議決

第一條 市吏員夜業及宿直ノ節左ノ賄料ヲ支給ス  
但市長助役收入役ハ此限ニアラス

書記其他附屬員 一度 金 拾 錢  
給仕使丁ノ類 一度 金 八 錢

第二條 宿直ノ節ハ二度分ヲ支給ス其翌日ニ至リ終日勤續スルモノハ一度分ヲ増給ス

第三條 夜業ノ節午後八時ヲ過クレハ一度分午後十二時ヲ過レハ二度分徹夜ニ至ルモノハ二度分ヲ給ス

第四類給 與  
ヲ廢止ス

### 名古屋市吏員使丁給仕等賞與手當

#### 支給規程

明治二十三年度 大正元年八月退職及死亡給與金條例施行  
第十九號議決 下同時ニ本規程第三條以下自然消滅ス

第一條 助役以下有給吏員使丁給仕等ニシテ公務上特別勤勞アルモノニ對シ市參事會ハ  
毎年末俸給豫算ノ剩餘ヲ以テ賞與ニ充ツルコトヲ得

第二條 助役以下有給吏員特別ノ事務ヲ負擔シ殊ニ勤勞アルモノハ前條ニ準シ臨時ニ賞  
與スルコトヲ得

第三條 有給吏員滿五年以上勤續シテ退職シタルトキハ退職現時ノ俸給半ヶ月分ヲ一ケ  
年ニ宛テ在職年數ニ乘シ手當トシテ一時支給ス

但本市退隱料條例第二條ニ掲クル一ニ該ルトキハ此限ニアラス

第四條 本市ニ編入セル町村ノ有給吏員ニシテ編入ノ當時引續キ本市ノ有給吏員ニ任用  
シタル者ノ前町村在職年數ハ本市在職年數ニ通算ス

第五條 市長以下有給吏員在職中死亡シタルトキハ手當トシテ其月給額三ヶ月分ヲ遺族  
ニ支給ス

但職務ノ爲メ死傷シタルモノアルトキハ其都度市會ノ議決ヲ經テ之ヲ支給ス

給料其他諸給與金ヲ受クヘキ者死亡シ遺族  
ナキ場合支拂ノ件

大正元年九月七日  
第一部長通牒

市吏員學校職員其他市費ノ支給ヲ受クヘキ者在職中死亡シ遺族ナキ場合ニ於テ市ヨリ當然支拂フヘキ給料其他ノ諸給與金ハ其親戚ノ者ニ支拂ヒ若シ親戚ナキ場合ニハ死者ノ葬儀ヲ執行シタル者ニ支拂フ、但支給規程ニ明文アルモノハ本文ニ據ル限ニ無之候

旅費請求書ニ宿所記載ノ件

大正二年九月六日  
名古屋市達第十三號

應	中	一	般	區	役	所
水道布設事務所				掃除監視吏員事務所		
傳染病院				屠		場

公務ニ依リ内國ヲ旅行シ宿泊シタルトキ之カ旅費請求書ニハ其宿所ノ家號若シクハ氏名ヲ明細記入スヘシ

### 市吏員以下給料支給規程ノ文意

大正三年四月十一日  
發 通 牒

名古屋市吏員以下給料支給規程第三條ニ新任ノ者ハ「就職ノ當日ヨリ」トノ規定ハ「裁可認可、發令ノ當日ヨリ」トノ文意ナルニ付爾後本文適用ノ際ニ其意味ヲ以テ取扱相成度候

轉任轉職ノ場合ニ於ケル給料

支給方ノ件

大正三年四月二十四日  
達第一九廳中一般

本市吏員中雇、技術員、事務員並之ニ準スヘキ者ニシテ書記又ハ之ニ相當スル職ニ任セラレタルトキ若クハ書記又ハ之ニ相當スル職ニ在ル者雇技術員事務員並之ニ準スヘキ職ニ轉シタル場合ニ於テ其月給料支給算出方ハ名古屋市吏員以下給料支給規程第三條ニ準シ發令ノ當日迄ハ前職ノ給料其翌日ヨリハ後職ノ給料ヨリ割テ以テ支給スル儀ト心得ラルヘシ

### 市吏員休職及特別給與規程

明治三十七年度 第六十號議決  
明治四十五年度 第三十五號改正議決

第一條 陸海軍ノ軍籍ニ在ル本市吏員ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集ニ應シタルトキハ其間休職ヲ命シ其翌月ヨリ俸給支給ヲ停止ス

但陸軍又ハ海軍ヨリ受クル俸給又ハ給料額(戰時増俸又ハ増給額ヲ除ク)休職當時ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ毎月其不足額ノ三分ノ一ヲ支給ス

第二條 陸海軍ノ軍籍ニ在ル本市雇員ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集ニ應シタルトキハ解職ヲ命ス

但陸軍又ハ海軍ヨリ受クル俸給又ハ給料額(戰時増俸又ハ増給額ヲ除ク)解職當時ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ解職ノ際月俸一ヶ月分以内ヲ支給ス

第三條 陸海軍ノ軍籍ニ有ル本市雇員又ハ雇員ニシテ勤務演習ノ爲メ召集ニ應シタル場合前二條ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

#### 附 則

第四條 本規程ハ明治三十八年四月一日ヨリ施行ス

但本規程施行以前ニ於テ既ニ召集セラレタルカ爲メ休職又ハ解職トナリタルモノニモ準用ス

第五條 明治二十七年第二十四號議決軍籍吏員休職ニ關スル件ハ本規程施行ノ日ヨリ之

### 内國旅費規程

改正  
明治四十五年七月二十九日告示第百五號  
大正二年五月十三日告示第七十二號  
大正二年七月十五日告示第百一號  
大正三年三月十二日告示第二十五號

- 第一條 公務ニ依リ内國ヲ旅行スルトキハ本規程ニ依リ旅費ヲ支給ス
- 第二條 旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料ノ五種トシ別表ニ定ムル所ニ從ヒ順路ニ依リ之ヲ支給ス朝鮮、臺灣、又ハ樺太ノ旅行ニ限リ市參事會ノ議決ヲ經テ旅費額ヲ増加スルコトヲ得
- 第三條 宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給ス
- 第四條 鐵道賃、船賃又ハ車馬賃ハ各其路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス
- 合算上一哩一海里又ハ一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨トス
- 第五條 市用ノ船車馬等ニテ旅行スルトキハ本規程ノ鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給セス
- 第六條 旅費支給ニ關シ旅行日數ハ出張地ニ於ケル滞在日數及途中已ムヲ得サル事由ノ爲メ要シタル日數ヲ除ク外鐵道旅行ハ二百哩水路旅行ハ百海里陸路旅行ハ十二里ニ付一日ノ割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ス但一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス
- 第七條 旅行中私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルモ其旅費ハ順路ノ路程ニ應シテ支給ス
- 第八條 陸路六里未滿鐵道四十八哩未滿水路三十海里未滿ノ旅行ニシテ職務ノ都合ニ依



リ宿泊シタル場合ヲ除ク外其支給スハキ日當ハ定額ノ半額トス一旅行ニシテ陸路鐵道又ハ水路ニ亘ルトキハ鐵道ハ八哩水路ハ五海里ヲ以テ陸路一里ト看做シ前項ノ規定ヲ準用ス

第九條 年度ニ依リ旅費ヲ區分計算スルノ必要アル場合ニ於テ其區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ着シタル日ヲ以テ其路程ヲ區分計算ス

第十條 新ニ就職スル爲メ赴任スル者ハ其職相當ノ等級ニ依リ旅費ヲ支給ス  
官公吏若クハ官公立學校職員在職中ノ者ニシテ就職スル爲メ休職退官退職トナリタル者ニハ前項ノ外其前任地ヨリ本市ニ至ル鐵道賃、船賃及車馬賃ノ類ニ相當スル赴任手當ヲ支給ス

第十一條 旅行中休職、退職、解職ノ者ニハ本市ニ至ル前職相當ノ旅費ヲ支給ス但懲戒處分ニ依リテ解職シタル者ハ此限ニアラス  
旅行中死亡シタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ其遺族ニ支給ス

第十二條 事務引繼殘務取扱等ノ爲休職、退職、解職ノ者ニ旅行ヲ命スルトキハ前職相當ノ旅費ヲ支給ス

第十三條 特別ノ事情ニ依リ定額ノ鐵道賃、船賃又ハ車馬賃ヲ以テ其實費ヲ支辨シ難キ場合ニ於テハ實費額ヲ支給スルコトヲ得

第十四條 市内ノ出張巡回ニシテ上司ノ隨行又ハ急遽ヲ要スルトキハ前條手當ノ外車馬賃ノ實費ヲ給スルコトヲ得

第十五條 囑託員ノ旅費ハ別表ニ依リ相當ノ等級ヲ定メ支給スルコトヲ得

他之ニ準スヘキ場所ニ出張スル者ニハ市長ハ第二條旅費額範圍内ニ於テ其旅費額ヲ定メ又ハ月額日額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

第十四條 市内ノ出張巡回ニシテ上司ノ隨行又ハ急遽ヲ要スルトキハ前條手當ノ外車馬賃ノ實費ヲ給スルコトヲ得

第十五條 囑託員ノ旅費ハ別表ニ依リ相當ノ等級ヲ定メ支給スルコトヲ得

旅費額表

等級	名稱區別	鐵道賃 一哩ニ付	船賃 一海里ニ付	車馬賃 一里ニ付	宿泊料 一夜ニ付	一日當
一等	市長	八錢	八錢	五拾錢	五圓	參圓
二等	助役、收入役	六錢	六錢	參拾五錢	參圓	貳圓
三等	區長、主事、技師、視學、課長、掃除監督長、傳染病院院長	五錢	五錢	參拾錢	貳圓拾錢	壹圓拾錢
四等	書記(課長ヲ除ク)技師、掃除監督傳染病院醫師、藥劑師	五錢	五錢	貳拾五錢	貳圓	壹圓
五等	掃除巡視、傳染病院書記、水道検査員、水道巡視、事務員、監視、雇員	四錢	四錢	貳拾錢	壹圓拾錢	壹圓
六等	給仕、使丁、其他雇人	參錢	參錢	一里ニ付雜費 八錢	七拾五錢	五拾錢

第四類 給 與

二十四

東京、京都、大阪、横濱、神戸ノ五市ニ滞在スル場合ニ限り本表宿泊料、日常ノ三割ヲ増給ス

### 外國旅費規則

明治四十五年  
第二十八號議決

公務ニ依リ外國ニ旅行スル場合ノ旅費支給方法ハ明治二十年閣令第十二號外國旅費規則ヲ準用シ旅費支給額ハ市參事會ノ議決ヲ經テ市長之ヲ定ム

第四類 給 與

二十五

### 市内旅費規程

大正三年三月三十日達第十號  
大正四年九月二十日達第十六號ヲ以テ改正  
廳中一般、區役所、水道施設事務所、掃除監  
視吏員事務所、屠場、傳染病院、墓地事務所

第一條 內國旅費規程第十三條ニ依リ支給スヘキ旅費額並其支給方法ハ內國旅費規程ニ定ムルモノ、外本規程ニ據ル

第二條 內國旅費規程第十三條ニ指定シタル場所ノ外市外地ニシテ市内ニ準スヘキ場所ヲ定ムル左ノ如シ

- 一 汚物焼却場
- 二 汚物埋却場
- 三 汚物仮置場
- 四 尿管貯溜場
- 五 救濟院

第三條 市内又ハ市外地ニシテ市内ニ準スヘキ場所(第四條ノ區域ヲ除ク)ニ出張スルトキハ等級ヲ設ケス左ノ手當ヲ支給ス

- 一 掃除監視吏員以外ノ吏員 六時間以上金拾五錢 六時間ヲ増ス毎ニ金拾五錢ヲ増給ス
- 二 掃除監視吏員 十二時間以上金拾五錢以上六時間ヲ増ス毎ニ金拾五錢ヲ増給ス

三 給仕使丁 六時間以上金拾錢以上六時間ヲ増ス毎ニ金拾錢ヲ増給ス但書狀配達ノ場合ハ支給セス

第四條 水道事務ニ従事スル者水道布設區域内(千種町及東山村大字田代地内ヲ除ク)ヲ旅行スルトキハ第一號表ノ旅費ヲ支給ス

第五條 出張巡回ヲ常務トスル者及派出所詰所勤務ノ者ハ(掃除監督吏員ヲ除ク)第三條

第四條ノ規定ニ依ラス第二號表ノ月額手當ヲ支給スルコトアルヘシ  
但一ヶ月出張二十日ニ滿タサルトキハ日割計算トス

前項月額手當ノ支給方法ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 支給ハ總テ發令ノ日ヲ以テ初メ若クハ之ヲ止ムルモノトス
- 二 病氣其他ノ事故ニ依リ缺勤シタル日數及市外ニ涉ル旅行ノ爲メ普通旅費又ハ第四條ノ旅費ヲ受クル間ノ日數ハ日割計算ヲ以テ其支給額ヲ控除ス
- 三 月額手當ノ日割計算ハ其月ノ現在日數ニ依ル
- 四 市ヨリ自轉車ノ貸付ヲ受クル者ハ定額ノ半額トス

計算上生スル錢位未滿ノ端數ハ切捨トス

第六條 月額手當ヲ受クル者夜間ニ亘リ執務シタル場合ハ左ノ手當ヲ増給ス

- 一 午后十時ヲ過クルトキ 金拾五錢
- 二 翌日午前二時ヲ過クルトキ 金參拾錢

第七條 第四條ノ路程計算ハ陸路ハ第三號表鐵道ハ哩數ニ依ル但公務ノ都合ニ依リ難キ場合ハ其路程ニ依ル

第一號表

等級	名稱	區別	鐵道賃	車馬賃	宿泊	日當
一 等	課長、技師	五	一哩ニ付	一里ニ付	一夜ニ付	一日ニ付
二 等	書記、技手	四	錢	拾五錢	八拾錢	五拾錢
三 等	水道検査員、水道巡視 雇員	參	錢	拾錢	六拾錢	四拾錢
四 等	工夫ノ類	貳	錢	付雜費ニ六錢	—	參拾錢

第二號表

種別	技師	月俸參拾圓以上	月俸參拾圓未滿	水道検査員 雇員
市外	拾五圓以内	拾貳圓以内	九圓以内	六圓以内
市内	拾圓以内	八圓以内	六圓以内	參圓以内

第三號表ハ之ヲ略ス

名古屋市名譽職員費用辨償規程

明治四十四年十月二十七日  
告示第七十五號

第一條 市會議長市會副議長市會議員名譽職市參事會員其他名譽職員ニハ職務ノ爲メ要スル費用ノ辨償トシテ左ノ金額ヲ支給ス

- 一、市會議長 年 額 金 參 百 圓
- 二、市會副議長 同 金 貳 百 圓
- 三、市會議員 同 金 百 五 拾 圓
- 四、名譽職市參事會員 同 金 貳 百 五 拾 圓
- 五、其他名譽職員 日 額 金 貳 圓

第二條 費用辨償ノ年額ニ屬スルモノハ十二分シ毎月二十一日ヨリ末日迄ニ日額ニ屬スルモノハ日數ニ應シ翌月之ヲ支給ス

第三條 議員ニシテ市制第四十九條ニ依リ議長ノ職務ヲ代理スルモ第一條第一號ノ年額ヲ支給セス

第四條 市會議員市會議長市會副議長名譽職市參事會員ヲ兼ヌル者ノ費用辨償額ハ最多額ノ辨償額ニ依リ其一ヲ支給ス

第五條 費用辨償ノ日額ニ屬スル名譽職員同日ニ二種以上ノ職務ニ從事スルモ日額ハ其一ヲ支給ス

第六條 就職退職ノ場合ニ於ケル費用辨償ノ年額ハ月數ニ應シ之ヲ支給ス  
 第七條 名譽職員職務ノ爲メ旅行ヲ要スルトキハ別表ノ額ニ依リ旅費ヲ支給ス  
 第八條 旅費支給ニ關スル方法ハ市吏員旅費支給規程ヲ準用ス

(別表) 旅費額表

名 稱	汽 車 賃		船 賃		馬 賃		宿 泊 料		日 當
	一哩	每二	一海里	每二	一里	每二	一夜	每二	
市會議長、市會副議長、市會議員、名譽職、參事會員	八	錢	八	錢	五	拾	錢	五	圓
其他名譽職員	六	錢	六	錢	參	拾	錢	參	圓
									貳 圓

### 退職及死亡給與金條例

大正元年八月七日 大正六年三月三十日  
 條例第一號 條例第二號ヲ以テ改正

第一條 本市有給吏員在職滿一年以上ニシテ退職シタルトキハ年俸ハ現給二十四分ノ一月給ハ現給二分ノ一ヲ其在職年數ニ乘シテ得タル金額ヲ一時給與ス  
 廢廳廢職ノ爲メ職ヲ罷メタル者ハ退職ト看做ス

第二條 本條例ニ於テ市有給吏員ト稱スルハ區長及吏員定員規則ニ定メタル吏員、傳染病院職員、屠場職員、鴨浦工場職員、八事墓地職員、掃除監視吏員ヲ云フ但水道布設事務所職員ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第三條 市長助役收入役退職又ハ死亡シタルトキハ市會ノ議決ヲ經テ特ニ給與金額ヲ定ム

市有給吏員ニシテ重要ノ職ニ在リテ功績顯著ナル者退職又ハ死亡シタルトキハ前項ヲ準用スルコトヲ得

第四條 第一條ノ給與ヲ受ケタル者再ヒ就職シタルトキノ在職年數ハ其再任ノ日ヨリ起算ス

第五條 市有給吏員ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル者ハ退職給與金ヲ支給セス  
 一、年齡六十年未滿ニシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者  
 二、懲戒ニ依リ解職セラレタル者

三、犯罪ノ爲メ免職セラレタル者

四、退隱料ヲ受クルニ至リタル者

第六條 本市有給吏員在職中死亡シタルトキハ左ノ金額ヲ其ノ遺族ニ給與ス  
一、在職七年未滿及遺族扶助料ヲ受クルニ至リタル者ハ現給料年額十二分ノ三  
二、在職七年以上十年未滿ノ者ハ現給料年額二十四分ノ一ニ在職年數ヲ乘シテ得タ  
ル金額

第七條 在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終ルモノトス但一年未滿ノ端數  
ハ之ヲ切捨トス

第八條 本條例施行ノ際現ニ在職ノ者ハ其就職ノ月ヨリ起算ス

附 則

第九條 明治四十四年十月一日以後退職又ハ死亡シタル者ニ對シテハ本條例ヲ適用ス

### 退 隱 料 條 例

大正元年九月七日 大正六年三月三十日  
條 例 第 三 號 條 例 第 一 號 ヲ 以 テ 改 正

第一條 本市有給吏員ハ本條例ノ規定スル所ニ依リ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 本條例ニ於テ市有給吏員ト稱スルハ區長及吏員定員規則ニ定メタル吏員（水道  
布設事務所職員ヲ除ク）傳染病院職員、屠場職員、鴨浦工場職員、八事墓地職員、掃  
除監視吏員ヲ云フ

第三條 市有給吏員在職滿十年以上ニ至リ退職シタル者ニハ終身退隱料ヲ支給ス  
但廢廳廢職ノ爲メ職ヲ罷メタル者ハ退職ト看做ス

左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ退隱料ヲ支給セス

一、年齢六十年未滿ニシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタルトキ

二、懲戒ニ依リ解職セラレタルトキ

三、犯罪ノ爲メ免職セラレタルトキ

第四條 前條ノ退隱料年額ハ退職當時ノ給料ト在職年數トニ依リ左ノ方法ヲ以テ之ヲ定  
ム

在職滿十年以上十六年未滿ノ者ハ給料年額百二十分ノ三十トシ滿十五年以上ハ滿一年  
毎二百二十分ノ一ヲ加ヘ十年ニ至テ止ム

退隱料年額圓位未滿ノ端數ハ圓位ニ滿タシム

第五條 在職中公務ノ爲メ疾病又ハ傷疾ヲ受ケ不具廢疾トナリ其職ニ堪ヘスシテ退職シタル者ニハ在職年數ニ拘ハラズ終身退職當時ノ給料年額百二十分ノ三十二相當スル退隱料ヲ支給ス

滿十年以上在職シタル者ニシテ前項ノ事由ニ依リ退職シタル時ハ第四條ノ規定ニ照準シタル退隱料年額ノ外其十分ノ七以内ニ於テ増額支給ス

第六條 有給吏員ノ在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終ルモノトス

前項ノ在職年數ハ一時退職ノ後再ヒ就職シタル者ニ在テハ前後ノ年數ヲ通算ス

但第三條第二項第一號乃至第三號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其以前ノ在職年數ヲ通算セス

第七條 本市ニ編入セラレタル町村ノ有給吏員ニシテ引續キ本市有給吏員ニ就職シタル者ノ其町村在職年數ハ本市ノ在職年數ニ通算ス

第八條 退隱料ヲ受クル權利ヲ有スル者再ヒ有給吏員ノ職ニ就キ在職滿一年以上ニシテ退職シタルトキハ左ノ區分ニ依リ退隱料ヲ支給ス

- 一、退職現時ノ俸給前退職當時ノ俸給ヨリ少額ニシテ後ノ在職年數ヲ通算スルモ其退隱料額前ノ退隱料額ヨリ少キトキハ前ノ退隱料ヲ支給ス
- 二、退職現時ノ俸給前退職當時ノ俸給額以上ナルトキハ其前後ノ在職年數ヲ通算シ現時俸給額ニ依リテ退隱料ヲ支給ス

三、第五條第一項ニ依リ退隱料ヲ受ケタル者ニ在リテハ前後ヲ通算シテ滿十五年以上ニ至ラサレハ其年額ヲ増加セス

四、第五條第二項ニ依リ退隱料ヲ受ケタル者ニ在リテハ前ニ受ケタル増額ヲ加算支給ス

第九條 退隱料ヲ受クル權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ退隱料ヲ受クル權利ヲ失フ

- 一、國民ノ分限ヲ失ヒタルトキ
- 二、六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 三、在職中ノ犯行為ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第十條 退隱料ノ支給ハ退職ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月又ハ權利喪失ノ前月ヲ以テ終ル

第十一條 退隱料ヲ受クル權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ退隱料ノ支給ヲ停止ス

- 一、本市有給吏員ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキ
- 二、禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其刑ノ執行ヲ終ル迄ノ間
- 三、全上刑ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間

前項ノ停止ハ停止理由ノ生シタル月ヨリ其終リタル月迄トス

第十二條 退隱料ハ其年額ヲ四分シ四月、七月、十月、一月ニ於テ其前三ヶ月分ヲ支給



ス但權利喪失若クハ停止ノトキハ期月ニ拘ラス之ヲ支給ス

第十三條 退隱料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル月ヨリ滿三ケ年以内ニ請求スルニ非サレハ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十四條 退隱料ハ賣買讓與質入ヲ爲スコトヲ得ス

附 則

第十五條 第六條ノ在職年數ハ改正市制施行前退職シタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ尙其以前ノ在職年數ヲ通算セサルモノトス

一、懲戒裁判ニ依リ退職セラレタルトキ但自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ハ此限りニ在ラス

二、隨時解職シ得ヘキ有給吏員ニシテ不都合ノ所爲アリタルカ爲メ解職セラレタルトキ

三、犯罪ニ依リ失職シタルトキ

四、職ニ就キタルカ爲メ公民タルノ權ヲ得ヘキ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルニ依リ辭職シタルトキ但後ニ免訴若クハ無罪ノ言渡アリタル場合又ハ有罪ノ宣告アルモ禁錮以上ノ刑ニ該ラサル場合ハ此限りニ在ラス

第十六條 舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ本條例ノ適用ニ付テハ六年ノ懲役又ハ

禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本條例ノ適用ニ付テハ禁錮以上ノ刑ト看做ス

第十七條 本條例ニ於ケル在職年數ノ起算ハ明治二十三年三月以前ニ溯ルヲ得ス

第十八條 舊條例ニ依リ退隱料ヲ受クル者ハ總テ舊條例ニ依ルヘシ但權利ノ消滅及停止ハ本條例ニ依ル

### 退隱料條例施行細則

大正二年一月二十七日  
告示第七號改正

第一條 本市退隱料條例ニ依リ退隱料ヲ受クヘキ權利ヲ取得シタル者ハ左ノ書類ヲ添付シ請求書ヲ差出スヘシ

- 一、在職中ノ履歷書
- 二、戶籍吏ノ作リタル戶籍謄本

第二條 退隱料條例第五條ノ規定ニ依リ退隱料ヲ受クヘキ者ハ前條添付書類ノ外左ノ書類ヲ以テ事實ヲ證明スヘシ

- 一、現認證書又ハ之ヲ證スヘキ公文ノ寫若クハ口供書
- 二、醫師ノ診斷書

第三條 退隱料條例第五條第二項ニ依ル增加退隱料ノ等差左ノ如シ

- 一、兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ 十分ノ七
- 二、前號ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六
- 三、一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五
- 四、前號ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四
- 五、一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ三
- 六、前號ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二

傷疾疾病ノ等差ハ明治十八年太政官達第十六號文官傷疾疾病等差例ニ依ル

第四條 退隱料ノ請求アリタルトキハ市長ニ於テ查覈ノ上之ヲ受クルノ權利アルモノト認定シタルトキハ退隱料證書ヲ下付ス(別紙雛形)

第五條 退隱料ハ各支給期月ノ十日以後ニ於テ之ヲ支拂フ

但死亡若クハ權利喪失ノ場合ハ其事實ノ生シタル時支拂フモノトス

第六條 退隱料ヲ受領セムトスルトキハ退隱料證書ヲ提示シテ其權利ヲ證明スヘシ

退隱料ヲ受クル者他市町村ニ居住スルトキハ其地市區町村長ノ退隱料證書所持證明書ヲ以テ前項ノ提示ニ代フルコトヲ得

第七條 退隱料ヲ受クル者其居住地ヲ轉シタルトキハ十日以内ニ届出ツヘシ

第八條 退隱料ヲ受クル者其支給ヲ停止セラルヘキ事由ノ生シタルトキハ本人又ハ家族ヨリ其事由ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ届出ツヘシ

前項停止ノ事由止ミタルトキハ其旨本人ヨリ届出ツヘシ

第九條 退隱料ヲ受クル者死亡シタルトキハ其遺族ヨリ權利ヲ喪失シタルトキハ本人又ハ家族ヨリ其事由ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ届出テ退隱料證書ヲ返納スヘシ

第十條 退隱料ヲ受クル者改氏名ヲ爲シ若クハ族稱ニ異動ヲ生シタルトキハ届書ニ戸籍吏ノ作リタル戸籍謄本ヲ添付シ退隱料證書ノ訂正ヲ請フヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ退隱料證書ノ裏面ニ訂正ノ要旨ヲ記載シ捺印ノ上返付ス

第十一條 退隱料證書ヲ亡シタル者ハ速カニ其旨届出ツヘシ

第十二條 前條ノ届出アリタルトキハ其事實ヲ調査シ正當ト認ムルトキハ退隱料證書ノ謄本ヲ下付ス

前項退隱料證書ノ謄本ハ退隱料證書ト同一ノ効力アルモノトス

第 號

退 隱 料 證 書

(形 雛)

元 名古屋 市

年 月 生

退 隱 料 年 額 金

名古屋 市 退 隱 料 條 例 ニ 依 リ 前 記 ノ 年 金 ヲ 受 ク ハ  
キ コ ト ヲ 認 メ 此 證 書 ヲ 附 與 ス

大 正 年 月 日

名古屋 市 長

(裏) (面)

此證書ハ賣買讓與又ハ質入ヲ爲スコトヲ得ス  
 本人改氏名ヲ爲シ若クハ族籍ニ異動ヲ生シタルトキハ戸籍吏ノ作リタル戸籍謄本ヲ  
 添付シ訂正ヲ請フヘシ  
 水火盜難ニ罹リ此證書ヲ亡失シタルトキハ速ニ其旨届出ヘシ  
 表書ノ年額金ハ毎年四月、七月、十月、一月ニ其前三ヶ月分ヲ支給ス  
 前記金額ハ毎支給期月ノ十日以後ニ於テ支拂フヘキニヨリ此證書ヲ提示領收スヘシ  
 但本人死亡若クハ權利喪失ノ場合ハ其事故ノ生シタルトキ支拂フヘシ

### 遺族扶助料條例

明治四十五年七月二十五日 大正六年三月三十日  
 名古屋市條例第七號 條例第三號ヲ以テ改正

第一條 本市有給吏員左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ本條例ノ規定ニ依リ其遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

- 一、公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ在職中死亡シタルトキ
- 二、退隱料ヲ受ク可キ年數ニ達シタル者ニシテ在職中死亡シタルトキ
- 三、退隱料ヲ受クル者死亡シタルトキ

扶助料ハ前項第一號ノ場合ニ在リテハ本市退隱料條例第五條第八條ニ依リ査定シタマヒ金額ノ三ヶ年分トシ第二號ノ場合ニ在リテハ全條例第四條第八條ニ依リ査定シタル金額ノ二ヶ年分トシ第三號ノ場合ニ在リテハ其退隱料年額二ヶ年分トス  
 公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後滿一年以内ニ其傷疾疾病ニ起因シテ死亡シタルトキハ第一號ノ場合ニ準ス

第二條 扶助料ハ寡婦ニ給ス寡婦ナキトキハ子ニ給ス數子間ニ在リテハ法定家督相續人ニ給シ戸主ニ非ラサル者ノ子ニ在リテハ長子ニ給ス

第三條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及子ナキトキハ直系尊屬ニ給ス  
 前項ノ場合ニ在リテハ父ニ給シ父ナキトキハ母ニ給ス父母ナキトキハ祖父ニ祖父ナキトキハ祖母ニ給シ順次此例ニ依ル

第四條 本條例ニ於テ市有給吏員ト稱スルハ區長及吏員定員規則ニ定メタル吏員傳染病院職員、屠場職員、鴨浦工場職員、八事墓地職員、掃除監視吏員ヲ云フ但水道布設事務所職員ヲ除ク

寡婦、子、尊屬ト稱スルハ市有給吏員タリシモノ死亡ノ當時ヨリ引續キ其家ニ在ル者ヲ云フ

### 遺族扶助料條例施行細則

大正二年二月八日  
告示第十二號

- 第一條 本市遺族扶助料條例(以下單ニ條例ト記ス)第一條第一項第一號又ハ第二號ニ當ル者アリタルトキ若クハ同條第三項ニ當ル者ノ遺族ヨリ請求アリタルトキハ死亡者ノ履歷書ヲ其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料請求ノ證トスヘシ
- 第二條 條例第一條第一項第三號ニ當ル者ノ遺族ハ其退隱料證書ヲ以テ扶助料請求ノ證トスヘシ
- 第三條 條例第一條第一項第一號及同條第三項ニ當ル者アリタルトキハ本市ニ於テ事實ヲ查覈シ其傷痍若クハ疾病ノ公務ニ起因シタル證據トナルヘキ書類及醫師ニ診察ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ其診斷書ヲ併セテ遺族ニ下付ス遺族ハ之ヲ以テ扶助料請求ノ證トスヘシ
- 第四條 扶助料ヲ受ケムトスル者ハ戶籍吏ノ作リタル戶籍謄本及第一條乃至第三條ニ掲クル書類ヲ添ヘ市長ニ請求スヘシ
- 第五條 扶助料ノ請求アリタルトキハ市長ニ於テ查覆ノ上之ヲ受クヘキ者ニ對シ扶助料證書ヲ下付ス
- 第六條 扶助料ノ拂渡ヲ受ケムトスル者ハ扶助料證書ヲ當市收入役ニ提示スヘシ

### 傳染病豫防救治者手當支給規則

明治三十四年度  
第四十五號議決

- 第一條 傳染病豫防救治ニ従事スル吏員及雇員ニシテ執務ニ因リ病毒ニ感染シ又ハ之ニ原因シテ死亡シタルトキハ本規則ニ定ムル處ニ依リ手當金ヲ給ス
- 第二條 前條ノ手當金ハ左ノ四種トス
- 一 療治料
  - 二 給助料
  - 三 弔祭料
  - 遺族扶助料
- 第三條 療治料ハ病毒ニ感染シタル者ニ給ス其額ハ一日壹圓五拾錢以内ニ於テ市長之ヲ定ム
- 第四條 給助料ハ感染者ノ治癒シタルモノニ給ス其額ハ年俸十二分ノ三以内月俸三ヶ月分以内又ハ日給九十日分以内ニ於テ市長之ヲ定ム
- 第五條 弔祭料ハ死亡者ノ遺族ニ給ス遺族ナキトキハ葬儀ヲ行フ者ニ給ス其額ハ年俸十二分ノ一月俸一ヶ月分又ハ日給三十日分トス
- 第六條 遺族扶助料ハ感染者ノ死亡シタルトキ其遺族ニ給ス其額ハ年俸一ヶ年分以内月俸十二ヶ月分以内又ハ日給三百六十五日分以内ニ於テ市長之ヲ定ム
- 第七條 名譽職員公務ノ爲メ傳染病ニ感染シタルトキハ療治料一日參圓及全快ノ後金百五拾圓若死亡シタルトキハ祭資料參百圓ヲ給ス
- 第八條 市醫公務ノ爲メ傳染病ニ感染シ又ハ死亡シタルトキハ手當金ヲ給ス其額ハ市長

之ヲ定ム

第九條 傳染病豫防救治ニ從事スル有給吏員ニシテ專ラ該病者又ハ病毒汚染ノ虞アル物品ニ接近スル者ニハ其從事中特ニ月手當ヲ給スルコトヲ得其額ハ受クル者ノ給料額三分ノ一以内ニ於テ市長之ヲ定ム

第十條 此規則ニ掲クル手當金ノ給與ヲ受クルモノニハ市吏員賞與手當支給規程第五條但書ニ限リ之ヲ適用セス

附 則

第十一條 明治二十八年八月十日市會ノ決議ニ係ル傳染病豫防救治吏員手當ノ件ハ此規則ノ實施ト同時ニ之ヲ廢止ス

### 小學校教員特別給與規程

明治三十七年度  
第五十九號議決

第一條 本市立小學校在職正教員ニシテ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルニ由リ休職ヲ命セラレタル者ハ休職期間内毎月休職當時ノ俸給月額四分ノ一以内ヲ支給ス

但支給金額ハ其都度市長ニ於テ之ヲ定ム

第二條 本市立小學校在職准教員ニシテ本市ノ薦擧ヲ得本縣師範學校甲種講習科ニ入學シ休職ヲ命セラレタル者ハ其入學期間内毎月金貳圓ヲ支給ス

第三條 本市立小學校在職正教員ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタルカ爲メ休職トナリタル者陸軍又ハ海軍ヨリ受クル俸給又ハ給料ノ額(戰時俸又ハ増給額ヲ除ク)休職トナリタル當時ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ毎月不足額ノ三分ノ一ヲ支給ス

准教員代用教員ニシテ前項事由ニヨリ退職トナリタル者應召當時陸軍又ハ海軍ヨリ受クル俸給又ハ給料額(戰時俸又ハ増給額ヲ除ク)退職當時ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其際准教員ハ月俸一ヶ月分代用教員ハ月俸半ヶ月分ヲ支給ス

附 則

第四條 本規程ハ明治三十八年四月一日ヨリ施行ス

但第三條ノ規定ハ本規程施行以前ニ於テ既ニ召集セラレタルカ爲メ休職又ハ退職ト

ナリタル者ニモ準用ス

### 市立學校々醫年手當金支給内規

明治四十年八月十二日  
市參事會議決

- 第一條 名古屋市立各學校々醫ノ年手當ハ其金額十二分ノ一ヲ毎月職員俸給支給日ニ於テ之ヲ支給ス
- 第二條 新任者ノ手當若クハ支給額増減ノ際ハ總テ發令ノ翌日ヨリ日割チ以テ之ヲ支給ス
- 第三條 退職者ハ發令當日ヲ限り日割ヲ以テ支給シ在職中死亡ノトキハ其月分全額ヲ給ス
- 第四條 退職ノ者事務引繼殘務整理ノ爲メ執務スルトキハ其間尙従前ノ手當支給額ヲ日割ニテ支給ス
- 第五條 私事ノ故障ニ依リ(父母ノ祭日忌引及定期休暇ヲ除ク)執務セサルコト二十日ヲ超ユルトキハ其以後手當ヲ支給セス
- 第六條 病氣ノ爲メ欠勤日數(父母ノ祭日忌引及定期休暇ヲ除ク)六十日ヲ超ユルトキハ其以後日割ヲ以テ手當支給額ヲ半減シ二百二十日ヲ超ユルトキハ全ク支給セス
- 但職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ此限ニアラス
- 第七條 前條私事ノ故障ト病氣ト連續スル場合ニ於テハ之ヲ通算セス
- 第八條 手當支給上日割計算ヲ要スルトキハ年手當額十二分ノ一ノ月額ニ給與スヘキ日



數ヲ乘シ其月ノ現日數ヲ以テ除ス

但支給上錢位未滿ノ端數ハ切捨トス

附 則

第九條 商業學校高等女學校其他併合ニ係ル元熱田町及小碓村ノ各學校醫等ニハ當分ノ  
内適用セス

學校幼稚園職員使丁賞與ニ關スル件

明治四十一年度  
第七十號議決

學校幼稚園ノ職員並使丁ノ賞與及慰勞手當ハ俸給ノ殘額ヲ以テ之レニ充ツルコトヲ得

### 高等小學校書記死亡ノ節給料支給方

明治三十七年十一月  
市參事會決議

本市高等小學校書記ニシテ轉退職ノモノハ其月俸給ハ日割計算ヲ以テ支給候處爾來在職中死亡ノモノニ限り其月分ハ全額ヲ支給ス

### 掃除監督長及掃除監督被服料

#### 支給規程

大正二年三月十七日 大正五年五月十日  
告示第三十二號 告示第四十一號ヲ以テ改正

- 第一條 掃除監督長及掃除監督ニハ被服料トシテ左ノ金額ヲ給與ス
- 一、初任ノトキ年額金參拾圓以內
  - 二、次年ヨリ年賦金貳拾圓以內
- 第二條 前條第一號ノ被服料ハ就職ノトキ第二號ヲ被服料ハ前回ノ被服料受領後滿一ケ年ニ達シタル翌月ニ於テ之ヲ支給ス
- 第三條 第一條ノ被服料ヲ受ケタル後一年未滿ニシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者ハ月割ヲ以テ其料金ヲ返納セシム

掃除巡視給與品及貸與品規則

明治三十三年度  
第十號議決

第一條 掃除巡視ニ給與スヘキ品目左ノ如シ

一、帽

一、冬服

一、外套

一、日覆

一、夏肌着

一、靴下

一、下襟

一、長靴

第二條 掃除巡視ニ貸與スヘキ品目左ノ如シ

一、帽章

一、手帖

第三條 給與品ノ帽、冬服、夏服、外套、日覆ハ現品ヲ以テシ冬肌着、夏肌着、靴下、長靴、短靴、手套、下襟ハ代料ヲ以テ給與ス

第四條 本則施行ニ關スル細則ハ市參事會之ヲ定ム

第四類 給 與

### 掃除巡視給與品及貸與品細則

明治三十三年五月廿四日  
市參事會議決

第一條 給與品ノ種類及保存期限ヲ定ムル左ノ如シ

一、制帽	壹個	保存期限	十二ヶ月
一、冬服	壹個		二十四ヶ月
一、夏服	壹個		十二ヶ月
一、外套雨履トモ	壹着		三十六ヶ月
一、日履	壹個		十二ヶ月
一、下襟	貳個		六ヶ月
一、手套	壹個		六ヶ月
一、冬肌	壹組		十二ヶ月
一、夏肌	壹組		十二ヶ月
一、靴下	貳足		二ヶ月
一、長靴	壹足		十二ヶ月
一、短靴	壹足		十二ヶ月

第二條 代料ヲ以テ給與スヘキ物品ノ價額ハ毎年度別ニ之ヲ定ム

第三條 給與品ハ新ニ任命ノ節ハ其當日保存滿期ノ節ハ其翌月初メニ於テ給與スヘシ

- 第四條 新任者ニハ前任者ノ返納品ヲ給與シ其保存期限ヲ繼續セシムルコトアルヘシ  
但代料ヲ以テ給與スル物品ハ此限ニアラス
- 第五條 貸與品ハ退職休職轉職死亡ノ際返納セシム保存滿期ニ至ラサル給與品亦同シ
- 第六條 保存滿期ノ給與品ハ各受領者ニ全給ス
- 第七條 貸與品又ハ保存期限中ノ給與品ヲ毀損紛失ノ重過失怠慢ニ出タルモノハ辨償ノ責ニ任スヘシ
- 第八條 新ニ就職シタルモノハ夏服ニ限り貳個ヲ給與スルコトアルヘシ  
但此場合ニ於テ保存期限ヲ二十四ヶ月トス
- 第九條 私費ヲ以テ制服調製シ使用セムトスルモノハ監督長ニ於テ一般給與ノ品質及製式ニ從ヒ之ヲ認可スヘシ

### 守衛以下給與品及貸與品規則

大正三年五月二十一日告  
示第六十八號  
大正四年三月十六日告示  
第二十九號ヲ以テ改正

- 第一條 守衛、監視、運轉手、給仕ニハ左ノ物品ヲ給與ス  
帽(日覆付)冬服、夏服、短靴  
守衛監視及運轉手ニハ別ニ外套ヲ給與スルコトヲ得
- 第二條 守衛監視及運轉手ニハ左ノ物品ヲ貸與ス  
帽章、襟章
- 第三條 使丁ニハ左ノ物品ヲ給與ス  
帽(日覆付)袴纏、股引
- 第四條 常備人夫ニハ左ノ物品ヲ給與スルコトヲ得  
袴纏、雨具、帽(日覆付)又ハ被笠
- 第五條 給與品ハ現品ヲ以テ支給シ其品種、員數、保存期限、支給期日及方法ハ市長之ヲ定ム
- 第六條 給與品ノ修補ハ總テ自辨トス  
過失ニ因リ貸與品ヲ毀損シ若クハ紛失シタルトキハ其代料ヲ辨償セシム

### 水道検査員、水道巡視被服給與規則並守衛

#### 以下給與品及貸與品規則施行細則

大正三年五月二十七日達第二十三號

大正五年一月十二日達第二號ヲ以テ改正 廳中一般

- 第一條 水道検査員、水道巡視、守衛監視連轉手、給仕、使丁及常備人夫ノ給與品員數及保存期限ハ別表ノ通トス、但支給上ノ都合ニ依リ保存期限ヲ伸縮スルコトアルヘシ
- 第二條 給與品ハ新任者ハ新任ノ際保存満期ノトキハ満期ノ際新品ヲ給ス
- 第三條 新任者ニハ保存期限未了ノ返納品ヲ給與シ其保存期限ヲ繼續セシムルコトアルヘシ但代料ヲ以テ支給スル給與品ハ此限アラズ
- 第四條 保存期限未了ノ給與品ハ轉免死亡等ノ場合ハ之ヲ返納セシム
- 第五條 貸與品ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ之ヲ賠償セシム但職務ノ爲メ避クヘカラサル障害ニ起因シタルモノハ此限ニアラズ
- 第六條 新任者ニハ其初年ニ限り夏服二着ヲ給與スルコトヲ得
- 第七條 代料ヲ以テ支給スル物品ノ價格ハ毎年度之ヲ定ム
- 第八條 私費ヲ以テ給與品ト同一ノモノヲ調製使用スルコトヲ妨ケス
- 第九條 給與品ノ修繕ハ各自辨トス

第四類給與

給與品目	給與員數	保存期限
帽	壹個	一ケ年
冬服	壹着	二ケ年 着月數十六ケ月 自至十五月間着用
夏服	壹着	一ケ年 着月數四ケ月 自至九六月間着用
外套雨覆付	壹着	三ケ年
靴	壹足	一ケ年
脚絆	壹組	二ケ年
裕絆	壹枚	一ケ年 着月數八ケ月 自至十五月間着用
單絆	壹枚	一ケ年 着月數四ケ月 自至九六月間着用
股引	壹個	一ケ年
笠	壹個	一ケ年
雨合羽	壹個	一ケ年

筥

壹個  
一ケ年

第四類給與



事務員技術員臨時雇等ニ市内旅費及

賄料支給ノ件

大正三年四月  
十七日決裁

特別經濟道路改修、小學校建築費、公園設備等ニ従事スル事務員、技術員、臨時雇等ニシテ職務ノ性質上出張巡回ヲ常務トスル者ニ對シテハ市内旅費規程第五條ヲ準用シ月額手當ヲ支給ス其支給額ハ水道検査員、水道巡視、雇員ニ準ヌ  
市内旅費規程第六條ノ夜勤増手當及市吏員以下賄料支給規程第一條ノ賄料ハ前記職員ニモ書記技手同様支給スヘキコトニ決定相成候

### 吏員出張ノ際電車利用ノ件

明治四十一年十月一日  
市訓示第四號

三〇五

吏員急速ノ要務ヲ負ヒ市内出張ノ爲メ乗車ヲ要スルトキ電氣鐵道沿道へ出張若クハ其附近經過ノ場合ハ努メテ電車ヲ利用シ左ノ手續ニ依リ乗車切符ノ交付ヲ受クヘシ

- 一 吏員急行出張ノ爲メ電車ニ乗車スル場合ハ出張命令簿ニ依リ相當手續ヲ經テ乗車切符ノ交付ヲ受クヘシ
- 一 乗車切符ノ交付ハ秘書係ニ於テ取扱ヒ其受拂ハ明確ニ記載シ置クモノトス

徽章貸與内規

明治四十一年五月十日  
市參事會決裁

- 第一條 本市吏員並名譽職市參事會員ノ制服ニ用ユル帽章襟章袖章ハ凡テ貸與スルモノトス
- 第二條 徽章ハ轉免又ハ死亡シタルトキハ之ヲ返納スルモノトス
- 第三條 故意又ハ過失ニヨリ徽章ヲ毀損又ハ滅失シタルトキハ其實價ヲ賠償スルモノトス

露光量違いの為重複撮影

第五類  
教育

第四類  
給  
典

七十六

露光量違いの為重複撮影

第五類  
教育

第四類  
給  
典

七十六

市教育効績者表彰規程	一
商業學校規則	三
商業學校附屬速成科規則	一三
第一、第二高等女學校學則	一五
第一、第二、第三幼稚園規則	二七
熱田實業補習學校學則	三三
小學校簿冊保存規程	三七
幼稚園設置ノ件	三九
幼稚園改稱ノ件	四一
盲啞學校設置ノ件	四三
盲啞學校學則	四五
小學校授業料徴收内規	五九
高等小學校授業料徴收ノ件	六一
高等小學校授業料免除ニ關スル件	六三
工藝學校規則	六五
工藝學校授業料徴收規程	七九

名古屋市教育効績者表彰規程

大正二年五月十一日  
告示第七十號ニテ改正

- 第一條 本市ノ教育ニ關シ効績顯著ナリト認ムル者ハ市長之ヲ表彰ス
- 第二條 表彰ハ表彰狀並金品ヲ贈與シテ之ヲ行ヒ市公報ヲ以テ之ヲ公示ス
- 第三條 死亡者ニシテ第一條ニ該當スルモノハ本規程ヲ適用スルコトヲ得
- 附 則

明治四十四年名古屋市告示第十四號ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

市教育効績者表彰規程	一
商業學校規則	三
商業學校附屬速成科規則	一三
第一、第二高等女學校學則	一五
第一、第二、第三幼稚園規則	二七
熱田實業補習學校學則	三三
小學校簿冊保存規程	三七
幼稚園設置ノ件	三九
幼稚園改稱ノ件	四一
盲啞學校設置ノ件	四三
盲啞學校學則	四五
小學校授業料徴收内規	五九
高等小學校授業料徴收ノ件	六一
高等小學校授業料免除ニ關スル件	六三
工藝學校規則	六五
工藝學校授業料徴收規程	七九

名古屋市教育効績者表彰規程

大正二年五月十一日  
告示第七十號ニテ改正

- 第一條 本市ノ教育ニ關シ効績顯著ナリト認ムル者ハ市長之ヲ表彰ス
- 第二條 表彰ハ表彰狀並金品ヲ贈與シテ之ヲ行ヒ市公報ヲ以テ之ヲ公示ス
- 第三條 死亡者ニシテ第一條ニ該當スルモノハ本規程ヲ適用スルコトヲ得

附 則

明治四十四年名古屋市告示第十四號ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

### 市立名古屋商業學校規則

大正二年十月改正

#### 第一章 總 則

- 第一條 本校ハ商業學校規程ニ依ル甲種商業學校ニシテ主トシテ内外商業ニ關スル必須ノ教育ヲ施シ躬ヲ能ク商務ヲ處理經營スヘキ者ヲ養成スル所トス
  - 第二條 本校ノ教科ヲ分テ豫科、本科ノ二科トス
  - 第三條 豫科ハ本科ニ入ルヘキ準備トシテ必須ノ學科ヲ教授ス
  - 第四條 本科ハ商業専門ノ學術ヲ教授ス
  - 第五條 本校修業年限ハ豫科二年、本科三年トス
  - 第六條 本科卒業ノ後特ニ商業ニ關スル事項ヲ研究セントスルモノハ一ケ年以内研究生トシテ在學セシム
  - 第七條 本校生徒ノ定員ハ大約八百名トス
  - 第八條 本校ニ附屬速成科ヲ設ク其ノ學科課程等ニ係ル規則ハ別ニ定ムル所ニ據ル
- 第二章 學 科 課 程
- 第九條 豫科ノ學科目ハ修身、國語、算術、地理及歴史、理科、圖書、英國及體操トス
  - 第十條 本科ノ學科目ハ修身、國語、數學、商業地理及歴史、簿記、經濟及統計、商品、商業要項及實踐、法律、英語及體操トス



第十一條 豫科、本科ノ課程ヲ定ムルコト左ノ如シ

學科	豫科學科課程表	
	第一學年	第二學年
學身	二 嘉言、善行	二 同上
國語	八 講讀、作文、習字	八 同上
算術	五 小數、分數、比例、珠算、暗算	五 割合、開法、求積、珠算、暗算
地理及歷史	二 內國	二 內外國
理科	二 博物、理化ノ大要	二 同上
圖書	二 自在書	二 自在書、用器書
英語	七 誦讀、譯讀、書取、習字	七 同上
體操	二 普通、兵式	三 同上
時間合計	三〇	三〇

本科學科課程表

學科	本科學科課程表		
	第一學年	第二學年	第三學年
學身	二 嘉言、善行	二 同上	二 同上
國語	八 講讀、作文、習字	四 同上	二 同上
數學	五 商業算術、代數、珠算、暗算	五 同上及幾何	
商業地理及歷史	二 內外國		
簿記	四 各種商業	四 同上、銀行	四 官省、工場
經濟及統計		三 經濟通論、貨幣、銀行、貿易、爲替	三 租稅、國債、統計、大意
商業要項及實踐	二 商業法規	二 內外國產	
法律		三 內外國取引	八 既修諸學科應用、內外國取引
英語	八 誦讀、譯讀、書取、習字、文法、會話	八 誦讀、譯讀、書取、會話、作文、文法	八 會話、作文、翻譯

體操	二兵式	二同上	二同上
時間合計	三三三	三三三	三三三
備考	本科第三學年ニ於テハ生徒ノ志望ニヨリ英語科ノ五時間ヲ減シ商業實踐ノ教授時數ニ充ツルコトアルヘシ		

第三章 學年、學期及休業日

第十二條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十三條 一學年ヲ分チ三學期トシ第一學期ハ學年ノ始メヨリ八月三十一日ニ至リ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至リ第三學期ハ一月一日ヨリ學年ノ終ニ至ル

第十四條 休業日ヲ左ノ通定ム

- 一日 曜 日
- 一大 祭 祝 日
- 一 本 校 創 立 記 念 日
- 一 夏 期
- 一 冬 期
- 一 春 期

六月二十八日

自七月二十一日

至八月三十一日

自十二月廿五日

至翌年一月七日

自三月二十二日

至三月三十一日

第四章 入學、退學及保證人

第十五條 入學期ハ學年ノ始トシ豫科第一學年ニ入學セシム

第十六條 前條ニ依リ入學ヲ許スヘキモノハ品行端正、志望堅固、身體強健ニシテ尋常小學校卒業以上ノ者タルヘシ

第十七條 入學志願者ノ數募集人員ニ超過スル時ハ尋常小學校卒業ノ程度ニヨリ國語、算術ノ二科ニ就キ學力ヲ試験シ入學者ヲ選拔ス

第十八條 入學志願者ハ第一號書式ニ依リ入學書願ヲ差出スヘシ

第十九條 入學志願者ハ入學試験料トシテ金壹圓ヲ入學願書ニ添ヘ差出スヘシ

第二十條 但シ既納ノ入學試験料ハ何等ノ事故アルモ返付セス

第二十一條 入學ヲ許サレタル者ハ保證人正副兩名ヲ定メ學校指定ノ日時ニ於テ保證人ト

第二十二條 町村ニ在住シ保證ノ責ニ任シ得ルモノトス

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタルモノ

一 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタルモノ

一 引續キ一箇年以上缺席若クハ正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタルモノ

一出席常ナラザルモノ  
一授業料怠納ニ週間ニ及ブモノ

第五章 學力査定及證書

第二十三條 每學年ノ課程ノ修了又ハ全學年ノ卒業ヲ認ムル爲メ每學年ノ終リニ於テ生徒ノ學力ヲ査定ス

第二十四條 學力ノ査定ハ日課評點ノ平均ニ據ル

日課評點ハ各學科百點ヲ以テ最高トス

學科ノ種類ニ依リ特ニ試業ヲ施シ其成績ヲ以テ日課評點ニ代フルコトアルヘシ

第二十五條 各學科評點四十點各學科平均評點六十點以上ヲ得タルモノヲ合格トス

第二十六條 全學科ノ卒業ヲ認メタルモノニハ第三號書式ニ依ル卒業證書ヲ授與ス

第六章 授 業 料

第二十七條 授業料ハ一人一ヶ月金貳圓トス

但シ學校ノ休業全月ニ涉ルトキハ其ノ月ノ授業料ヲ徴收セス

第二十八條 授業料ハ學校指定ノ期日ニ差出スヘシ

第七章 生徒心得

第二十九條 生徒心得ノ要領ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 三恩ヲ感謝スベシ

一 商士道ヲ發揮セヨ

一 世界ハ我市場ナリ

第八章 褒賞及懲戒

第三十條 品行學業其ノ他特ニ優秀ナルモノハ適宜之レヲ表彰ス

第三十一條 生徒タルノ本分ヲ守ラザルモノハ輕重ニ應シ之レヲ懲戒ス

第九章 補 則

第三十二條 本則施行ニ關スル細則ハ別ニ之レヲ定ム

(第一號書式)

入 學 願 書

- 一 出願年月日
- 一 入學志願者姓名
- 一 生年月日
- 一 本籍地
- 一 現住所
- 一 族稱、職業(家業若クハ父兄ノ職業)身績(何某何男又ハ弟等)
- 一 卒業セシ尋常小學校名

- 一 尋常小學校卒業年月日
- 一 卒業若クハ修學中ノ高等小學校又ハ其ノ他ノ學校名及學年
- 一 褒賞ヲ受ケタル回数(種類別ニ記  
載ノコト)

父兄又ハ後見人 姓 名 印

市立名古屋商業學校長氏名殿

(第二號書式)

誓 約 書

私儀今般御校へ入學御許可相成候ニ就テハ御校則ヲ遵守シ專心學業ヲ勉勵可致候  
仍テ誓約書如此候也

年 月 日

本籍地  
現住所、族稱、職業、身續  
姓

生 年 名 月 日 印

本籍  
現住所、族稱、職業  
正保證人 姓

生 年 名 月 日 印

本籍  
現住所、族稱、職業  
副保證人 姓

生 年 名 月 日 印

市立名古屋商業學校長氏名殿

(第三號書式)

卒 業 證 書

校 印

族 籍

姓

生 年 名 月 日

本校定ムル所ノ規則ニ據リ本科ヲ卒業セリ仍テ此ノ證書ヲ授與ス

市立名古屋商業學校長位動氏名印

第 何 號

### 市立名古屋商業學校附屬速成科規則

明治二十七年五月

- 第一條 速成科ハ商業學校規程ニ依ル乙種商業學校ノ程度ニシテ商業上必須ノ學科ヲ教授ス
- 第二條 生徒ノ定員ハ五百名トス
- 第三條 修業年限ハ三ヶ年トス
- 第四條 速成科ニ入學志願ノモノハ品行方正身體健全年齡十二年以上學力尋常小學校卒業以上ノモノタルヘシ  
但シ入學志願者ノ數入學ヲ許スヘキ人員ニ超過スルトキハ尋常小學校第六學年ノ程度ニ依リ國語算術ノ二科ニ就キ試業ヲ施シ入學者ヲ選抜ス
- 第五條 學科課程表別表ノ如シ
- 第六條 速成科卒業ノ後尙學習シタル事項ヲ練習セントスルモノハ一ヶ年間補習セシムルモノトス
- 第七條 速成科授業料ハ一ヶ月金壹圓貳拾錢トス補習生亦同シ
- 第八條 本校規則ニシテ速成科規則ニ抵觸セサルモノハ總テ之ヲ適用ス

#### 速成科學科課程表

學科	學年	每週時間	第一學年	每週時間	第二學年	每週時間	第三學年
修身	二	二	嘉言、善行	二	同上	二	同上
國語	九	八	講讀、作文、習字、 小數、分數、比例、 速算、暗算	八	同上、割合、 求積及雜題	八	同上
數學	八	六		六	同上	五	同上
簿記		四		四	單式及複式	六	複式及和式
商事要項及 實踐		三		三	商店、會社、賣買	四	同上、運送、保險 實踐、經濟初步
地理及歷史	二	二	內國	二	內外國		
理科	二		博物、物理、化學及 自然現象、大要				
圖書	二		自在書				
英語	三	三	誦讀、譯讀、習字	三	同上及書取	三	同上及會話
體操	二	二	普通、兵式	二	同上	二	同上
時間合計	三〇	三〇		三〇		三〇	

### 名古屋市立第一高等女學校學則

大正三年四月一日  
生徒定員改正

#### 第一章 修業年限、生徒定員、學科ノ程度及每週教授時數

- 第一條 本校ニ本科及補習科ヲ置ク
- 第二條 修業年限ハ本科ヲ四ケ年、補習科ヲ一ケ年トス
- 第三條 生徒ノ定員ハ(第一六百人)トス但補習科ノ生徒ハ定員ニ算入セズ
- 第四條 本科ノ學科目ハ修身、國語、英語、歷史、地理、數學、理科、圖書、家事、裁縫、音樂、體操、教育トス但教育ハ隨意科目トス
- 補習科ヲ第一部第二部トシ第一部學科目ヲ修身、國語、圖書、家事、裁縫、音樂、體操トシ第二部ノ學科目ヲ修身、國語、英語、數學、理科、圖書、家事、裁縫、音樂、體操トス但英語ヲ隨意科目トス
- 生徒身體ノ狀況ニヨリ學習スルコト能ハズト認ムル學科目ハ之ヲ其生徒ニ課セザルコトアルベシ

第五條 學科ノ程度及其每週教授時數ハ別表ニ據ル但シ教授時數ハ夏期休業前後通ジテ二週間以内每週十八時マデ減縮スルコトアルベシ

第六條 生徒ノ志望ニヨリ前條ノ教授時數以外ニ於テ茶道、插花ヲ授クルコトアルベシ

第二章 學期及休業日

第七條 學期ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第八條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

日 曜 日

祝日、大祭日

東照宮祭日 六 月 二 日

本校開校記念日

熱田神宮祭日 六 月 二十一日

皇后陛下御誕辰 六 月 二十五日

夏 期 七 月 二十一日ヨリ  
八 月 三十一日マデ

冬 期 十二月二十五日ヨリ  
翌年一月七日マデ

學 年 末 一 週 間

第三章 入學、退學及保證人

第九條 第一學年ニ入學ヲ許スベキモノハ年齡滿十二年以上ニシテ尋常小學校ヲ卒業シ

タルモノ若クハ尋常小學校卒業ノ程度ニヨリ其學力ヲ檢定シタルモノトス  
前項後段ノ檢定ハ國語、算術、日本歴史、地理、理科ニ就キ試験ヲ行フ

第一學年入學志願者中尋常小學校ヲ卒業シタルモノハ其他ノ志願者ニ先ダチテ入學ヲ  
許可ス

第十條 入學志願者中尋常小學校ヲ卒業シタルモノ、數募集人員ニ超過スルトキハ國語  
算術ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニヨリ選抜試験ヲ行フ

第十一條 第二學年以上ニ入學ヲ許可スベキモノハ相當年齡ニ達シ相當ノ學力ヲ有スル  
モノトス

前項ノ學力ハ試験ニヨリ之ヲ檢定ス

第十二條 入學志願者ハ第四號書式ノ入學願書及第五號書式ノ履歷書ヲ差出スベシ

第十三條 入學ヲ許可セラレタルモノハ一週間以内ニ保證人ヲ定メ第六號書式ノ誓約書  
及戶籍謄本ヲ差出スベシ

第十四條 保證人ハ父母尊屬トシ父母尊屬事故アルトキ若クハ遠隔ノ地ニ居住スルトキ  
ハ學校附近ニ於テ一家計ヲ立ツル成年以上ノ戶主ヲ以テ保證人代理者トスベシ  
前項ノ保證人又ハ保證人代理者ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルベ  
シ

第十五條 保證人又ハ保證人代理者ハ住所、氏名若クハ印章ヲ變更シタルトキハ直ニ届ケ出ツベシ

第十六條 已ムヲ得ザル事情アリテ他ノ學校ヘ轉學シ若クハ退學セントスルモノハ其事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願ヒ出ツベシ

第十七條 病氣又ハ事故ニヨリ缺席セントスルトキハ保證人ヨリ其事由ヲ記シテ届ケ出ツベシ

第十八條 左ノ各項ノ一ニ該當スルモノハ退學ヲ命ス

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタルモノ
- 二 成業ノ見込ナシト認メタルモノ
- 三 出席常ナラザルモノ

第四章 成績 考 査

第十九條 各學年ノ課程ノ修了又ハ卒業ヲ認ムルニハ其學年間ニ於ケル操行及學業ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム

第二十條 成績ハ評點ヲ以テ之ヲ表ハシ最高點ヲ百點トス

第二十一條 學期成績ハ一學期間ノ成績ヲ考査シ學年成績ハ各學期ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム

第二十二條 各學科目ノ成績五十點以上ニシテ各學科目ノ平均成績六十點以上ヲ得タル

モノヲ合格トス但シ各學科目ノ成績五十點ニ滿タザルモノアリト雖モ特ニ合格ト認ムルコトアルベシ

第二十三條 再入學ヲ許シタル者ノ退學前ニ係ル成績ハ其ノ學年相當期ノ成績トシテ充用スルモノトス轉學ヲ許シタル者ノ前學校ニ於ケル成績モ亦同シ

第二十四條 正當ノ事由アリテ試験ヲ缺キタルモノニ對シテハ特ニ補缺試験ヲ行フコトアルベシ

第二十五條 本科ヲ卒業シタルモノニハ第一號書式ノ卒業證書、補習科ヲ修了シタルモノニハ第二號書式ノ修業證書、隨意科目ヲ修了シタルモノニハ第三號書式ノ修業證書ヲ授與ス

第五章 授業料及入學試験料

第二十六條 授業料ハ一人一ヶ月金貳圓トス

第二十七條 授業料ハ毎月十日マデニ納ムベシ但一月ハ二十日マデトス

第二十八條 學校ノ休業全月ニ及ブトキハ其月ノ授業料ヲ徵收セズ

第二十九條 病氣又ハ事故ニヨリ缺席若クハ登校停止全月ニ亘ルモ在籍中ハ授業料ヲ納ムベシ

第三十條 入學志願者ハ入學試験料トシテ金壹圓ヲ入學願書ニ添ヘ前納スベシ但既納ノ入學試験料ハ何等ノ事由アルモ返附セズ



第六章 褒賞、懲戒

第三十一條 生徒中他ノ模範トナスベキモノハ之ヲ表彰ス

第三十二條 教育上必要ト認メタル生徒ニハ懲戒ヲ加フ懲戒ハ譴責、退學ノ二トナス

第七章 附 則

第三十三條 本則施行ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

(第一號書式)

卒業證書

族 籍

氏

生 年 月 日 名

右者本校(修業年限(四ヶ年)ノ課程ヲ卒業セリ依テ之ヲ證ス

年 月 日

學校長位勳爵 氏

名

番 號

(第二號書式)

修業證書

族 籍

氏

生 年 月 日 名

右者本校補習科第一(二)部ノ課程ヲ修了セリ依テ之ヲ證ス

年 月 日

學校長位勳爵 氏

名

番 號

(第三號書式)

修業證書

族 籍

氏

名

第五類 教 育

右ハ本校ノ隨意科目 科ヲ修了セリ依テ之ヲ證ス  
年 月 日

生 年 月 日

學校長位勳爵 氏

名

番 號

(第四號書式)

入 學 願 (用紙野半紙)

私儀御校第何學年ニ入學志願ニ付御許可下サレ度別紙履歷書相添父兄(若クハ後見人)連署ヲ以テ此段願上候也

原籍.....

現住所..... 族籍

職業戶主某何女(或ハ姉妹)

氏

名

年 月 日

生 年 月 日

住 所

父兄(後見人)

氏

名印

學 校 長 氏 名 殿

(第五號書式)

履 歷 書 (用紙野半紙)

原籍.....

現住所..... 族籍

職業戶主某何女(或ハ姉妹)

氏

生 年 月 日

名

一何年何月何學校ニ入り何年何月何科卒業(又ハ何科何學年修了)證書寫シ別紙ノ  
通リ  
一何年何月何々ノ件ニ付何々ノ賞若クハ罰ヲ受ク  
右ノ通リ相違無之候也

年 月 日

右

氏

名

(第六號書式)

消印  
印紙入

誓約書 (用紙野半紙)

私儀今般御許可ヲ得御校へ入學致候就テハ御規則堅ク相守リ勤學仕ルベキハ勿論  
中途轉退學等妄リニ申出間數候依テ誓約仕候也

年 月 日

現住所……………族籍  
職業戶主某何女(或ハ姉妹)  
名

右某御校在學中ハ御規則堅ク遵守致サスベキハ勿論同人ニ係ル一切ノ件ハ拙者ニ  
於テ引受可申候依テ保證仕候也

年 月 日

現住所……………族籍  
保證人 氏  
生 年 月 日 名印

學校長 氏名 殿

備考 保證人代理者ハ保證人ノ次ニ連署スベシ

課程表

理 科	數 學	地 理 史	英 語	國 語	修 身	每週時數		補習科
						第一學年	第二學年	
二 植物、動物、	三 整數及小數、珠算	二 日本地理史	三 發音、綴字、讀方、書取、習字	六 講讀、作文、習字	二 生徒心得、道徳ノ要領、作法	二 教育ニ關スル要領、道徳ノ作法	二 戊申詔書、道徳ノ要領、作法	二 我國道徳ノ特質、作法
二 動物、礦物、化學	二 約數及倍數、比、珠算	二 日本地理史	三 全上	六 講讀、習字、作文	二 要領、道徳ノ作法	二 要領、道徳ノ作法	二 戊申詔書、道徳ノ要領、作法	二 我國道徳ノ特質、作法
二 化學、物理	三 比例配分、混珠算	一 外國地理史	一 外國歷史諸國	六 全上	二 法	二 法	二 法	二 法
二 生物、生理衛	二 開平、求積、習、珠算	一 外國地理史	一 外國歷史諸國	五 講讀、作文、習字	二 我國道徳ノ特質、作法	二 我國道徳ノ特質、作法	二 我國道徳ノ特質、作法	二 我國道徳ノ特質、作法
四 博物、理化	四 幾何、算術			四 全上	二 全上	二 全上	二 全上	二 全上

圖畫	一 寫生畫、臨畫	一 全	一 全	一 全	一 全	一 全	一 全	一 全	一 全
家事	一	一	三 家内整理、家事衛生、飲食調理、實習	二 育兒、養老、看病、家事經濟、家計簿記	二	二	二	二	二 實習
裁縫	五 運針、縫方、裁方、繕ヒ方	六 全	六 縫方、裁方、ミシン用法	六 全	上 一八	四 全	上	上	上
音樂	二 樂典、基本教練、歌曲	二 全	二 樂器使用法	二 全	上 上	一 全	上	上	上
體操	三 普通體操	三 全	上	三 全	上	二 全	上	上	上
教育	一	一	一	二 教育ノ大要	一	一	一	一	一
計	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇

### 名古屋市立幼稚園規則

第一第二第三

大正四年二月  
可認改正

第一條 名古屋市立幼稚園ハ幼兒ヲシテ嬉戲歡樂ノ中ニ其心身ノ健全ナル發育ヲ遂ケ善

良ナル習慣ヲ得シメ以テ家庭教育ヲ補フ所トス

第二條 幼兒年齡ハ滿三年以上小學入學時迄トス

第三條 一園ノ幼兒ノ定員ハ百五十人トス

第四條 保育ノ課目ハ談話（修身、行儀、庶物、事實等）

手技（積木、板排、著排、縫取、紙剪、紙摺、紙織、貝排、刺紙、書キ方、

豆細工、粘土細工、繫ギ方等）唱歌遊戯トス

第五條 一ケ年ノ保育日數ハ大約四十週ニシテ一週ノ保育時數ハ十九時乃至二十二時ト

ス

但シ夏季休業前後ハ暑熱ノ都合ニ依リ各組トモ一週保育ノ時數ヲ十五時マテ減縮ス  
ルコトアルヘシ

第六條 休業日ハ左ノ如シ

日曜日

祝日、大祭日

本園創立紀念日

第五類教育

東照宮祭日 四月十七日  
 熱田神宮祭日 六月二十一日  
 皇后陛下御誕辰 六月二十五日  
 夏季休業 七月十一日ヨリ  
 冬季休業 十二月二十五日ヨリ  
 春季休業 三月二十五日ヨリ  
 三月三十一日マデ

第七條 入園ノ時期ハ豫メ之レヲ定メス缺員アル毎ニ入園ヲ許可ス  
 第八條 入園ヲ願フ者ハ本人ノ族籍、姓名、生年月日及父母若クハ後見人ノ住所姓名ヲ  
 詳記シタル左式ノ願書ヲ差出スヘシ

入 園 願

(本籍) 何縣何市郡何町何番戶

(寄留)

族籍職業何某何男女

何

生年月日 某

右者貴園ニ入園爲致度此段相願候也

右父母

後見人

何

某印

名古屋市立第 幼稚園長氏名殿

第九條 入園願ト同時ニ左式ノ經歷書ヲ差出スヘシ

經 歷 書

- 一、出生年月日 幼兒 何 某
  - 一、營養品(實母或ハ乳母ノ乳、牛乳、人乳牛乳混用等)
  - 一、痘瘡或ハ種痘ノ濟否
  - 一、生來著シキ疾病ニ罹リシコトノ有無及病名病狀等
  - 一、兩親ノ年齢及健否
  - 一、兄弟姉妹ノ數及健否
  - 一、其他特別ノ事情
- 右之通御座候也

年 月 日 右 後父母 見人 何 某

第十條 幼兒ノ缺席一週間ニ及フトキハ其事由ヲ届出ツヘシ

但シ傳染病ニ罹リシトキハ直ニ其病狀ヲ届出ツヘシ

第十一條 退園セントスルモノハ其理由ヲ書シ願出ツヘシ

第十二條 保育料ハ一ヶ月金壹圓トス

第十三條 保育料ハ幼兒出席ノ有無ニ拘ラス納付スヘキモノトス

但夏季休業滿一ヶ月及本園ノ都合ニ依リ滿一ヶ月間全ク休業スルトキハ其月分ノ保

育料ヲ徴セス

第十四條 六ヶ月以上保育ヲ受ケタルモノニシテ保育證明證ヲ望ム者ニハ左ノ證書ヲ授  
與ス

番 號 證	族 籍 何 某 何 女 男	何 生 年 月 日
年 月 日	右者本園ニ於テ何年何月ヨリ何年何月マテ何月間保育シタルヲ以テ茲ニ之ヲ證ス	
	名古屋市第 幼稚園	

附 則

附 添 人 心 得

一、附添人ハ幼兒ノ往復ヲ看護スルヲ主トシ保育時間中ハ保姆ノ指揮ニ非サレハ幼兒ニ關係スヘカラス

二、附添人ハ保育時間中所定ノ場所ニ扣ヘ居ルヘシ

三、附添人ハ保姆ノ命令ヲ遵守スルハ勿論扣席ニアリテ動作ヲ正シ高談笑語等ナスヘカラス

### 名古屋市立熱田實業補習學校學則

#### 第一章 目的

第一條 本校ハ商業若クハ工業ニ從事シ又ハ從事セントスルモノニ簡易ナル方法ニヨリ其職業ニ必要ナル智識技能ヲ授クルト同時ニ普通教育ノ補習ヲナスヲ以テ目的トス

#### 第二章

第二條 教科目及程度、修業期間、教授時間及時數  
教科目程度並修業期間教授時間ヲ定ムルコト左ノ如シ

商業之部		修業期間	教科目	時間	程度
七月ヨリ 四月マデ	國語 珠算 商業書信	四 四 四	商業上須知ノ文字及普通文ノ讀方、書方 加減、乗除及速算 商業用往復文廣告文ノ綴方認メ方	四 四 四	
九月ヨリ 十二月マデ	國語 珠算 商業地理	四 四 四	商業上須知ノ文字及普通文ノ讀方、書方 加減、乗除及速算 區劃、交通、都會、生産ニ關スル日本地誌ノ大要	四 四 四	

三 月 マ ヨ リ	國 語 商 業 簿 記	四 四 四	商 業 上 須 知 ノ 文 字 及 普 通 文 ノ 讀 方 、 書 方 四 則 步 合 算 單 記 式 及 複 記 式 ノ 大 要
-----------------------	----------------------------	-------------	---

工 業 之 部

修業期間	教 科 目	一週時間	程 度
四 月 マ ヨ リ	國 語 算 術 圖 書 科	四 四 四	工 業 上 須 知 ノ 文 字 及 普 通 文 ノ 讀 方 、 書 方 諸 等 數 、 小 數 、 分 數 自 在 書
九 月 マ ヨ リ	國 語 算 術 物 理 術	四 四 四	工 業 上 須 知 ノ 文 字 及 普 通 文 ノ 讀 方 、 書 方 分 數 、 比 例 物 理 上 ノ 現 象 簡 易 ナ ル 器 械 ノ 構 造 作 用
三 月 マ ヨ リ	國 語 算 術 幾 何 書	四 四 四	工 業 上 須 知 ノ 文 字 及 普 通 文 ノ 讀 方 、 書 方 比 例 、 步 合 算 幾 何 書 法

第三條 修身科ハ別ニ時間ヲ定メ他ノ教科目ニ附帶シテ之ヲ授ク  
每週教授時數ハ十二時間トシ季節ニヨリ午後六時ヨリ九時マデノ間ニ於テ學校  
長之ヲ定ム

第四條 國語算術ハ隨意科目トシ一教科目以上三教科目ヲ修メシム  
第五條 教科目ニヨリ志望者僅少ナル時ハ臨時他ノ教科目ト變更シ若クハ開講セザルコ  
トアルベシ

第 三 章 休 業 日

第六條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ  
日曜日、祝祭日、熱田祭、夏期休業八月一日ヨリ同三十日迄  
冬期休業十二月二十五日ヨリ翌年一月七日迄  
學年末休業三月二十五日ヨリ同三十一日迄

第 四 章 入 退 學 修 業 認 定

第七條 入學セントスルモノハ本校ニ申出入學願書用紙ヲ受取り所要ノ事項ヲ記入シ署  
名捺印スベシ  
第八條 入學ヲ許可スルモノ、資格ハ年齢十二歳以上ノ男子ニシテ尋常小學校卒業以上  
ノ學力ヲ有スルモノトス  
但學齡ヲ過キタルモノニ限り本條ニ依ラズシテ入學セシムルコトアルベシ



第九條 退學セントスルモノハ其事由ヲ具シ保護者ヨリ届出ツベシ

第十條 無届缺席一ヶ月以上ニ及ブモノハ除名スルコトアルベシ

第十一條 行爲不良ニシテ生徒タルノ本分ヲ守ラザルモノ又ハ傳染病ニ罹リタルモノハ

出席ヲ停止シ又ハ退學ヲ命ズルコトアルベシ

第十二條 教科目修了者ニハ修業期ノ終リニ於テ平素ノ成績ヲ考査シ出席日數ヲ参照シ

テ合格者ニ左式ノ修業證書ヲ授ク

第 號 修 業 證 書

何 科

氏

生 年 名 月

頭書ノ教科目ヲ修業セシコトヲ證ス

年 月 日

名古屋市立熱田實業補習學校

第五章 授 業 料

第十三條 授業料ハ一ヶ月金拾錢トシ毎月十日迄ニ之ヲ徵收ス

但學校ノ休業、出席停止若シクハ疾病ノ爲メ缺席全月ニ涉ルトキハ其月ノ授業料ヲ徵收セス

第四章 講 話 會

第十四條 本校ノ科外ニ實業講話會ヲ開クコトアルベシ

名古屋市高等、尋常小學校簿册保存規程

大正二年十二月二十七日訓示第七號

三四五

第一條 本市高等、尋常小學校簿册及保存文書ハ各學校ニ於テ一ヶ年毎ニ之ヲ類別シ處分完結ノ順序ニ從ヒ編纂シ所定ノ式ニ依リ整理保存スヘシ重要文書ノ編纂ハ其冊首ニ索引ヲ附スヘシ

第二條 簿册及文書ノ保存期限ハ左ノ三種トス

第一種 永 年

第二種 八 年

第三種 二 年

第三條 保存簿册ノ種別左ノ如シ

第一種

- 學校沿革史
- 學校規程
- 學 籍 簿
- 身體検査簿
- 修業證書臺帳
- 圖書臺帳
- 令達書綴
- 進達書綴
- 職員履歷書
- 職員出席簿
- 其他右ニ準スヘキモノ
- 學校日誌
- 學校一覽表
- 身體検査統計表
- 卒業證書臺帳
- 授賞人名簿
- 備品内譯簿
- 教授細目
- 年度末統計表綴
- 經費仕拂口譯簿
- 諸表簿樣式綴

第二種

- 成績考査簿
- 操作考査簿
- 個性調査簿
- 入退學願書綴
- 兒童移動取扱簿
- 兒童出席調査簿
- 教材研究録
- 教授法研究録
- 視學視察簿
- 職員會議事録
- 經費伺及指令綴
- 學校醫視察簿
- 兒童出席簿
- 教授週録
- 備品出納計算書綴
- 授業料調査表
- 其他右ニ準スベキモノ

第三種

- 學級日誌
- 看護日誌
- 宿直日誌
- 宿直通知簿
- 職員諸届書綴
- 衛生日誌
- 家庭連絡書類綴
- 往復文書綴
- 文書發送簿
- 一時限リ令達書類綴
- 教授案
- 消耗品受渡簿
- 缺席兒童督促簿
- 經費明細表綴
- 職員勤怠報告綴
- 月末報告綴

其他右ニ準スベキモノ

第四條 簿冊保存ノ計算ハ處分完了ノ年ヨリ起算ス但シ會計年度ニ屬スルモノハ決算完了ノ年度ヨリ起算スベシ

第五條 保存期限經過ノ簿冊ハ毎年物品出納主任ヘ引繼クベシ

幼稚園設置ノ件

左記ノ場所ニ幼稚園ヲ設置シ大正二年十月一日ヨリ開園ス

(大正二年九月十七日 告示第百二十號)

- 一、位置 名古屋市中區南伊勢町二丁目十二番
- 一、名稱 名古屋市立第二幼稚園

左記ノ場所ニ幼稚園ヲ設置シ大正四年四月一日ヨリ開園ス

(大正四年二月五日 告示第六號)

- 一、位置 名古屋市西區伏見町一丁目一番地
- 一、名稱 名古屋市立第三幼稚園

幼稚園改稱ノ件

大正二年九月三十日

名古屋市立第一高等女學校附屬幼稚園ヲ名古屋市立第一幼稚園ト改稱

### 盲啞學校設置ノ件

大正元年九月十七日  
告示第十四號

左記ノ場所ニ盲啞學校ヲ設置シ大正元年十月一日ヨリ開校ス  
位置 名古屋市東區小川町三十九番公立學校敷地外貳筆  
校名 名古屋市立盲啞學校